

2022 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

2022 年度事業報告

目 次

一	法人本部事業報告	2
二	事業経営	5
	1 障害福祉部門	5
	2 高齢福祉部門	30
	3 医療部門	59
	4 公益事業部門	72
	5 収益事業部門	74
三	理事会	75
四	評議員会	78
五	経営会議	79

一 法人本部事業報告

【はじめに】

2022年度は新型コロナウイルス感染の発生から3年を迎える年となり、過去2年にない大きな波を受けることとなった。

病院事業をはじめ、高齢福祉部門、障害福祉部門のすべてにおいて患者・利用者さんと職員に感染が確認され、中でも入所施設においてはクラスターが発生する事態となり、利用閉鎖や新規利用の中止など、事業運営上大きな打撃を受ける結果となった。

しかしながら大きなクラスターに発展しなかったのは、職員が毎日の緊張した状態の中で安全安心のために懸命に頑張ってくれた結果であると考えている。

一方、事業収支は今年度も大変厳しい結果となり、継続性の観点からも様々な点での取捨選択を迫られている。特に病院事業については資金繰りが厳しく、これまでも多くの支援を受けてきた修道会から最後の支援であるとする2億円を寄付いただくこととなった。毎月開催している理事会でもこのままでは他事業にも影響を及ぼしかねないと対策を検討しているが方策は見い出せていない。

今は縮小均衡を考える時と判断し、収支を安定させるための取捨選択を進め、事業継続させていくことを考えていきたい。

また、1995年に開設した小金井訪問看護ステーションと、1997年に開設した聖ヨハネホスピスケア研究所については、発足以来一定の役目を果たしたとして、今年度で事業廃止することとなった。

【事業報告】

- 1 理事会において、理事長及び業務執行理事の業務執行状況を報告した。(6月及び11月)
- 2 会計監査人による2022年度の会計監査を実施した。
- 3 所轄庁への現況報告書を整備した。また財務規律の強化として作成義務のある財務諸表等電子開示システムに関する各種データを作成し、社会福祉充実残額を算出した。
- 4 法人機能の強化
 - (1)サービスの質の向上
 - (ア)定款によって定められた「運営協議会」の第11回を2022年7月に、第12回を2023年1月に開催した。利用者家族や民生委員から構成される協議会で、要望や意見を聴く機会となり今後のサービスに反映していくこととなった。
開催日：第11回 2022年7月25日(月) 10:30-11:30
第12回 2023年1月30日(月) 10:30-11:30
 - (イ)昨年度に引き続き法人内の全事業所を対象とした研修会は実施できなかった。
 - (2)地域における公益的な取組の推進
 - (ア)関係団体(全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、小金井市社会福祉協議会等)が主催する連絡会等へ参加し、法人間の連携や広域的な取り組みに協力した。(開催はすべてリモート開催)
 - 会議名：東京都社会福祉協議会医療部会
開催日：2022年5月、7月、9月、11月、12月、2023年1月、3月
 - 会議名：全国福祉医療施設協議会
開催日：2022年10月、12月、2023年3月
 - 会議名：東京都社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会
開催日：2022年4月、6月、7月、9月、11月、2023年1月、2月
 - (3)信頼と協力を得るための情報発信
 - (ア)2022年度事業計画及び予算、2021年度事業報告及び決算をホームページへ掲載した。また各事業活動、提供するサービスの内容、公益的な取り組みの実施状況等について、広報誌等を作成し利用者や家族、地域住民に発信した。
 - (イ)コロナ禍における感染に関する取り組みや各施設の活動等を地域の町内会へ知っていただくための「聖ヨハネ会かわら版」を発行した。
 - (4)人材の確保に向けた取り組みの強化
 - (ア)人材採用活動の開始
高齢福祉部門の職員採用等を支援した。
 - (5)組織統治(ガバナンス)の確立
 - (ア)内部管理体制の基本方針に基づき、監事主導のもと外部機関の協力を得ながら、高齢福祉部門組織規程を改訂した。
- 5 事業運営に沿った規程類の整備について
各部門において給与規程、就業規則、組織規程、運営規程等について改訂した。

6 職員交流を目的としたレクリエーションは実施できなかった。

7 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害福祉部門東京事業所、高齢福祉部門の会計業務及び事務業務をサポートした。

その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

8 庶務・登記・監査事項等

1) 基本財産処分承認

●基本財産処分

① 2023年3月9日 富士聖ヨハネ学園敷地の基本財産を忍野村村道整備のため収用事業として処分申請

2) 登記

登記年月日	登記内容
2022年6月26日	資産の総額 (5,449,464,330 円) (2022年3月31日変更)

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
2022年11月1日	実地検査 (文書監査)	山梨県福祉保健総務課
2022年12月1日	安全指導 (職場環境の安全推進)	都留労働基準監督署
2022年9月	源泉所得税調査	武蔵野税務署 法人課税第2部門

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
2022年5月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
2022年6月	社会福祉法人調査票 現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
2022年7月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構

二 事業経営

1 障害福祉部門

【 総 括 】

部門の方針及び事業について

2022年度は主として新型コロナの感染拡大防止とコロナ禍での事業継続に取り組んだ。夏に東京事業部内でクラスターが発生したが、それ以降は安定した事業運営となっている。一昨年度の感染拡大当初は、社会全体で対応方法に確立されたものがなかったため、一人でも感染者が出ると通所事業所は一週間程度の閉鎖、C Vはユニット隔離等の対応を行っていたが、一定の対応方法が確立されたことや通所利用者のご家族への負担度や事業所の財政状況等々を勘案して、一律の事業所閉鎖は行わない方針で進めてきた。

課題である利用者の重度化・高齢化対応に取り組み、明見聖ヨハネケアービレッジについては利用者や職員の状況及び建物の契約期限等を勘案して検討を進めてきたが、利用者の生活の場を確保する必要があるため、コロナ禍の影響で学園の入所定員に空きが出ているタイミングで移動していただき、2022年3月末を以て閉鎖した。

支援面では、虐待認定はされなかったものの行政調査を受けた案件が発生した。本人のみならず家族等からも信頼される支援を提供することが望まれるため、研修や事例検討等を踏まえ、さらなる職員意識の改革と質の向上を目指す取り組みを行った。

また、就業規則と給与規程の改正に年間通して取り組んでおり、次年度中に結論を出したい。

財務状況について

障害福祉部門は、東京都民及び山梨県民向けの事業を行っており、事業内容も入所・通所施設から相談支援まで幅広い。性質上採算が見合わない事業もあるが、どの事業も必要不可欠であるとともに相互の協働・補完関係にあることから部門全体で取り組むことを指針としている。

一方、新型コロナが長期化する中で、2022年度はクラスターの発生による事業所閉鎖と利用控え及び学園の退所に伴う新規入所手続きの滞り等で部門全体に影響が出た。部門全体で資金収支がマイナスになる状況であるため、各事業所で定員を充足させていくことを最優先課題としつつ、事業の見直しを進めながら財務状況の改善を図っていききたい。

中期経営計画について

法人理念に則り、利用者ニーズに合わせた支援体制の構築と安定した事業運営を行うための利用率向上に取り組んだが、コロナ禍の影響で学園の新規入所困難や通所施設の利用控えで全体的な利用率の低下を招いた。利用者支援では利用者の重度化・高齢化が進む中で、可能な限り地域での生活を継続していくための仕組みが必要であるが、部門では幅広い事業形態があることから利用者の状態に合わせた適切な生活環境の提供に今後も取り組んでいきたい。

中期経営計画については、「人材の確保と育成」「地域公益活動」を中心に進めてきた。次年度から新規計画に基づく三年間となるため、「部門の財政基盤を安定させるための事業見直し」を重点目標として進めていきたい。また、厳しさを増している人材確保・定着については、さらなる強化を図る必要があるため、次年度専任の担当者を配置して取り組むこととしており、山梨と東京で連携を図りながら採用及び初期教育の基本スタイルを確立したい。

拠点区分名：富士聖ヨハネ学園

I 事業所名	：富士聖ヨハネ学園
サービス区分名	：施設入所支援事業・短期入所事業・生活介護事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
生活介護	154人	135人	129人	83.0%	83.0%	87.6%
施設入所支援	122人	121人	120人	95.2%	93.4%	97.5%
短期入所	8人	—	0.07人	5.3%	16.6%	48.8%

平均年齢 54.1歳（最高 85歳 最低 24歳）

男女比率 60名（男子）：61名（女子） 平均在所期間 29.7年（最長 50.7年）

年間入所 5名 年間退所 3名（死亡） 1名（退所）

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1		1							1		1
サビ管	5		5							5		5
生活支援員	66	37	103	5	3	3	8	8	11	68	32	100
事務員	4		4			1		1		4	1	5
栄養士・調理員	7	8	15				1		1	7	7	14
設備等	2	7	9							1	7	9
医師		1	1								1	1
看護師	2		2		1				1	1		1
医療事務員		1	1								1	1
合計	87	54	141	5	4	4	9	9	13	88	49	137

*非正規職員については、拠点間異動を含むため合計数値が一致しない。

【施設運営状況】

新型コロナによるクラスターが、学園内で、3回発生しているが、ゾーン対応によりそれぞれのクラスターが、ゾーン内で終息することができている。

また、コロナ禍での利用者の入院の増加による利用日数の減、感染予防のための短期入所の利用制限、光熱費の高騰が、大きく運営と経営にマイナスの影響を及ぼしている。

経営と運営への影響を抑えるため安定した施設入所者数の確保に取り組んでいる。

【利用者支援状況】

感染防止のために制限された利用者の活動、外出、面会は、利用者と保護者の方に大きな影響を与えたが、この間学園内では、感染防止に取り組みながら行事の工夫、面会の工夫を行いながら取り組んでいる。(季節の行事、面会の設定、会食等)

以上の取り組みについては、本年度実施された第三者評価でも、利用者、保護者から評価を頂いている。情報の開示と共有は、これからも迅速かつ丁寧に行っていきたい。

【施設整備状況】

- ・コロナ禍での感染した利用者を支援する職員の宿泊場所として簡易整備している。(寝具、カーテンの設置等)
- ・学園設備では、冷暖房機器の不具合の発生頻度が増し、その修理のための費用を抑えるために、業者を替えている。
- ・学園入口の接続道路(仮称：新鐘山道路)は、次年度から仮橋の設置等の工事に入る予定になっている。

【教育研修】 山梨事業部(富士聖ヨハネ学園)

日時	研修名	会場	出席者
4月4日	採用職員研修(学園)	富士聖ヨハネ学園 会議室2	4名
4月4日~30	問診で病気の症状を正しく伝える	富士聖ヨハネ学園 各課	90名
4月4日~30	ICT機器の活用	富士聖ヨハネ学園 各課	90名
6月14日15日	強度行動障害者支援者養成研修 基礎	青少年センター	95名
6月20日	山梨事業部新任職員研修	富士聖ヨハネ学園 会議室2	3名
6月22日	サービス管理責任者研修 更新研修	青少年センター	1名
6月29日	続利用者さんが飲んでる薬を知ろう!	オンライン研修	95名
6月30日	職員メンタルヘルス研修(職場復帰支援)	オンライン研修	11名
6月30日~	リーオンミ研修 講座自由選択	オンライン研修	46名
7月5日6日	相談支援従事者初任研修	オンライン研修	4名
7月7日	強度行動障害者支援者養成研修 基礎	オンライン研修	2名
7月20日	サービス管理責任者基礎研修	オンライン研修	4名
8月20日	食中毒を防ぐ(東京都作成)	オンライン研修	15名
9月15日	腰痛予防研修	富士聖ヨハネ学園 会議室1	6名
11月1日2日	強度行動障害者支援者養成研修 基礎	青少年センター	2名
11月8日9日	強度行動障害者支援者養成研修 実践	青少年センター	2名
11月10日	行動障害・自閉症研修	富士聖ヨハネ学園 会議室1	18名
11月16日	正しい方法で!新型コロナ感染症対策	オンライン研修	1名
11月18日	山梨県災害派遣福祉チーム研修	富士川町ますほ文化ホール	1名
11月25日	関東種別代表会議研修	ハイランドリゾート	2名
12月19日	知的障害者施設摂食嚥下研修	富士聖ヨハネ学園 会議室1	16名
1月13日	虐待防止・権利擁護研修	オンライン研修	1名
1月24日	山梨県虐待防止研修(管理)	オンライン研修	1名

※その他学園全体において計 23 回の研修 延べ外部研修 289 名、園内研修 222 名参加
(各課で企画し取り組んで研修は除く)
その他 各課で新型コロナウイルス感染予防研修、介護研修を実施している。

II 事業所名 : 富士聖ヨハネ学園 診療所

【施設運営状況】

各嘱託医師からの協力を頂き医療的な支援の体制がほぼ構築できている。またこの 1 年で支援と医療相互の協働も進んできている。

(現況 内科医 T 週 1 回 精神科医 週 1 回 精神科医 月 1 回 消化器内科月 1 回)

【利用者支援状況】

- ・日々の健康観察等（巡回）により利用者が適切な医療支援を受けることができるように取り組んだ。
- ・健康診断は、年 2 回実施し、結果を伝えるとともにその後のフォローを行っている。
- ・リハビリテーション委員会及び摂食嚥下カンファレンスを再構築し支援課、食事サービス課等と連携して利用者の支援を行っている。
- ・感染症予防、薬の管理、吸引の対応、応急手当等の研修会を、看護師を講師として実施している。(手洗い研修、ガウンテクニック研修、感染予防のための研修等)
- ・地域の協力を頂きながら早期のワクチン接種に取り組んでいる。(～5 回目終了)
- ・支援課からの利用者の健康管理及び外部受診にかかわる相談に対応している。
- ・利用者の入退院時の医療支援（医療情報の整理、共有）に取り組んでいる。

【施設整備状況】

診療に必要な機器を、医師と相談しながら購入している。

拠点区分名：富士北麓聖ヨハネ支援センター

Ⅲ 事業所名	：富士北麓聖ヨハネ支援センター
サービス区分名	：生活介護事業・就労継続支援B型事業・短期入所事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
生活介護	35人	35人	35.7人	79%	89.7%	93.3%
就労継続支援 B型	15人	11人	11人	64%	61.9%	62.1%
短期入所	3人	—	0.3人	42.7%	42.6%	32.9%

平均年齢 33.6歳（最高 68歳 最低 20歳）

男女比率 24名（男子）：21名（女子） 平均在所期間 5.8年（最長 9年）

年間入所 1名 年間退所 3名

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	11	11	22	1	1		1	1	2	11	10	21
看護師	1	2	3							1	2	3
調理員		1	1								1	1
合計	14	14	28	1	1		1	1	2	14	13	27

【施設運営状況】

生活介護の契約者数、利用率共に増えてきていたが明見 CV 閉鎖に伴い3名の利用者が法人内の他施設に移ったため退所となった。R5年度は相談支援事業所、基幹相談支援センターに空き状況を伝えて利用率が上がるようにしたい。

就労継続支援B型については、就労系事業所が圏域において飽和状態であり、施設見学は数件あったが利用にはつながっていない。生活介護同様、相談支援事業所、基幹相談支援センターに空き状況を伝えて利用率が上がるようにしたい。

生活介護は利用率が下がったため、収支は赤字となっている。強度行動障害の方、医療的ケアの必要な方まで多様な利用者が通って来ているが大きな事故などなく運営が出来ている。また、支援の難しさが出てきているので職員間での情報共有が必要となる。

就労継続B型ではコロナ禍のため煎餅、かわらけの売り上げに波があったが、旅の駅・道の

駅など売り上げ好調で過去最高益を上げることができたので、次年度も続けたい。
利用率が上がることで工賃向上へつながることもあるので他機関と連携していきたい。

【利用者支援状況】

(生活介護)

- ・活動内容を多様化し、利用者が多様な活動に参加できるようにした。それにより活動が活性化していった。
- ・理学療法士によるリハビリテーションプログラムの作成を行い、看護師を中心として実践を行った。
- ・行動障害の方が他利用者との関係で粗暴行為へつながることがあるので支援の組み立てを考えたい。
- ・車椅子の利用者がさらに増えてきているため、広い空間の確保などを検討し、学園通所課を含めた利用者の再編を検討したい。

(就労B)

- ・新規の受託作業を入れることができ、切れ間なく安定して作業に取り組んでもらった。
- ・各作業の手順の見直しをすることで作業の迅速化、正確化を図っている。
- ・個別支援計画書に則った支援の見直しを図りたい。

【施設整備状況】

- ・浄化槽ブロアー交換
- ・アルソック防犯設備機器交換（無償対応）

【教育研修】 富士北麓支援事業部（富士北麓聖ヨハネ支援センター）

日 時	研 修 名	会 場	出席者
5/24	山梨県ファシリテーション研修	オンライン	1名
6/29	続・利用者さんが飲んでいる薬のことを知ろう	オンライン	3名
7/7	行動障害支援公開講座	オンライン	1名
7/12	工賃向上研修	オンライン	1名
12/28	虐待防止・意思決定支援	センター	18名
11/30 12/1	強度行動障害基礎研修	県立青少年センター	1名
2/15 2/17	強度行動障害実践研修	県立青少年センター	1名

IV 事業所名	： 河口湖聖ヨハネケアービレッジ 明見聖ヨハネケアービレッジ 富士吉田聖ヨハネケアービレッジ
サービス区分名	： 共同生活援助 (介護サービス包括型)

【2022 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
河口湖聖ヨハネ ケアービレッジ	9人	9人	9人	99.6%	90%	89.2%
明見聖ヨハネ ケアービレッジ	7人	6人	6人	76.2%	85.7%	86.4%
富士吉田聖ヨハネ ケアービレッジ	13人	12人	12人	91.4%	85.1%	76.9%
富士吉田 CV 短期入所	1人	—	1人	50.1%	45.5%	37.8%

平均年齢 51.7 歳 (最高 73 歳、最低 19 歳)

男女比率 12 名 (男性) : 15 名 (女性) 平均在所期間 11 年 (最長 14 年)

年間入所 明見 CV2 名 年間退所 明見 CV 6 名

【職 員】

	令和 4 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						令和 5 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
生活支援員	3	14	17				3		3	3	11	14
合計	6	14	20				3		3	6	11	17

【施設運営状況】

- ・重症心身障害者を対象とした寿ホームを含め、障害支援区分の高い方が多い中で、大きな事故もなく運営することが出来た。
- ・年度途中、明見 CV 利用者 1 名 健康状況の悪化に伴い、施設入所が望ましいと判断し異動となった。
- ・10 月 明見 CV の閉鎖に伴い 2 名が富士吉田 CV へ入所。1 名が緑町 CV 入所 2 名が施設入所となった。

【利用者支援状況】

- ・8 月に河口湖 CV 利用者が新型コロナウイルスに感染し閉鎖措置を取る。
閉鎖の事実が受け止められず、市内へ無断外出する利用者が出て対応に苦慮。役所・基幹センターへ状況を伝えて助言等をいただいた。

- ・1月に富士吉田 CV・河口湖 CV 利用者が新型コロナウイルスに感染し、3CV が同時期に閉鎖措置を取った。
- ・河口湖 CV 利用者 腸閉塞の疑いで夜間に入院となった。
- ・富士吉田 CV（寿第2）食事・水分摂取が難しく、対応に苦慮。介護保険へ移行するか検討に入る予定。

【施設整備状況】

- ・特になし

【教育研修】 富士北麓支援事業部（ケアビレッジ）

日 時	研 修 名	会 場	出席者
6/29	続・利用者さんが飲んでいる薬の知ろう	オンライン	3名
8/23	虐待防止研修	寿第一	10名

V 事業所名 : さぼーとヨハネ
サービス区分名 : 相談支援事業

【2022 年度利用状況報告】

登録者 247 名

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
相談支援専門員	3	2	5							3	2	5
合計	4	2	6							4	2	6

【施設運営状況】

- ・山梨県「富士・東部圏域マネージャー」に1名出向
- ・富士北麓障害者基幹相談支援センター「ふじのわ」に1名出向
- ・富士聖ヨハネ学園入所利用者及び富士北麓地域に居住の方の計画相談契約者数が247件に達している。

【利用者支援状況】

- ・センター・富士吉田 CV の短期入所、センター利用者だけの対象であったが、学園通所課・さぼーとヨハネの利用者も利用ができるように拡大した。

- ・薬物・アルコール依存症者の計画作成を行っているが、利用の継続や意向が度々変わるため、難しさを感じている。

【施設整備状況】

- ・圏域マネージャー専用車が走行不能となり廃車、居宅支援課の車を代替車とした。

【教育研修】 富士北麓支援事業部（相談支援）

日 時	研 修 名	会 場	出席者
7/21	私のリカバリーストーリーとピアサポの活動について	オンライン	2名
8/3	高次脳機能障害の方の相談支援と地域連携	オンライン	1名
10/12	介護保険分野と障害福祉分野の連携について	富楽時	3名
11/16. 18. 30 12/1. 8	山梨県相談支援従事者主任研修	県立青少年センター他2ヶ所	1名
12/12	専門別コース研修 意思決定支援について	オンライン	2名
12/28	虐待防止・意思決定支援	センター	1名

拠点区分名：障害福祉部門 小金井

VI 事業所名 : 小金井聖ヨハネ支援センター
 サービス区分名 : 生活介護事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業
 就労定着支援事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
生活介護	25人	26人	19.7人	70.9%	83.6%	80.2%
就労移行	10人	2人	2.9人	29.0%	56.0%	66.0%
就労継続支援B型	25人	19人	17.6人	70.6%	80.4%	81.8%

平均年齢 生活介護 36.0歳 就労移行 48歳 就労継続B型 30.6歳
 (最高 68歳 最低 20歳)

男女比率 生活介護 17名:9名 就労移行 2名:0名 就労継続B型 12名:7名

平均在所期間 生活介護 4.5年 就労移行 1.5年 就労継続B型 6.0年 (最長7年)

年間入所 2名 年間退所 9名

【職員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
生活支援員	8	8	16			1	1	1	1	8	8	16
事務員	2	1	3							2	1	3
栄養士・ 調理員	2	1	3			1		1		2	2	4
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	19	13	22	1	0	1	1	3	1	19	13	22

【施設運営状況】

引き続きのコロナ禍であり、8月に生活介護での感染者増により1週間ほどの閉鎖を余儀なくされた。10月以降、就労移行や就労継続支援B型で感染者が時々見られたものの大きな蔓延は見られなかった。感染対策については引き続き行っていたが、生活介護等においては感染拡大を防

ぐための対応には難しいものがあった。職員体制については落ち着いた状況が続き、支援力向上のための所内研修や外部研修を積極的に行った。外部研修についてはコロナ禍でありオンライン研修が主に行われた。

【利用者支援状況】

生活介護では、8月に新型コロナの発症により1週間ほど閉鎖し、室内消毒等を行った。発症から感染があつという間であり、改めて感染症対策の難しさを感じた。感染対策を行いながら、今年度も屋内行事を行った。また、2023年に入り世間的にも新型コロナの感染者が減少したことから、これまで自粛していた外出行事を行うことができた。

就労移行支援では、一般企業に2名就職することができた。今年度より事業所内での職場訓練、ビジネスマナー等を習得し一般就労に繋げるカリキュラムを構築した。また、一般企業での就労が長期的に定着できるよう、職場訪問や面談等を定期的に行った。本年度は2名の方に定着支援を行い、企業側と就労者側の間に立ち本人への支援を行うことで、安定した就労が行えている。

就労継続B型では新型コロナの影響により自粛を余儀なくされていたが、社会情勢に合わせ感染防止対策に十分留意したうえで屋内外の作業を継続。また、パン販売では製造個数を調節し、途切れる事無く営業、販売が行えた。長きにわたるコロナ渦での窮屈な生活が続き、様々なケースでの対応が現れたが常に利用者とのコミュニケーションは欠かさず、不安の解消やストレスの緩和に目を向け、親身になって対応することで通所困難者はず、極端な利用率の低下は防げた。今後は自粛していた活動や新たな作業に対し利用者、職員で一丸となってチャレンジしていこうと考えている。

《作業種類》パン販売は支援センターとワークセンターの2カ所で販売。【火・木 販売日】

- 屋外清掃業務：法人本部内トイレ清掃、小金井市委託（公園・砂場・公園トイレ）清掃業務、地域不動産業者委託（アパート清掃、敷地内除草作業）、一般宅除草作業
- 室内作業：パン製造・販売・配送、小金井市委託（リサイクル袋作り）、一般業者委託（ネジ組立て、封入、チラシ折り込み内職）、刺しゅう小物作り
- その他作業：各イベント出店など

【施設整備状況】

- ・支援C換気扇・ロスナイ清掃・害虫防除
- ・パン工房 冷機器修理
- ・厨房 真空包装機・ブラストチラー購入
- ・移行 ノートパソコン・電動自転車購入
- ・事務所 デスクトップパソコン購入

Ⅶ 事業所名 : 小金井聖ヨハネワークセンター
サービス区分名 : 就労継続支援B型事業

【2022 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
就労継続 支援B型	20人	22人	18.5人	93.0%	86.7%	88.3%

平均年齢 44.4歳 (最高 80歳 最低 22歳)

男女比率 15名(男性) : 7名(女性) 平均在所期間 5.10年 (最長10.7年)

年間入所 2名 年間退所 0名

【職 員】

	令和4年4月1 日の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	1	3	4							1	3	4
調理員		2	2			1	1				2	2
合計	3	5	8							3	5	8

【施設運営状況】

2022年度は、新たに3名の利用者を受け入れ、定員20名に対し現員22名となるが毎日の通所が困難な利用者も数名在籍している為、在宅支援者に対し一層力を入れて支援に取り組んだことで利用率の安定化に繋がった。

コロナ渦でも安全に取り組める作業として、新規作業の確保に向け積極的に働きかけ、新たにシルクスクリーン作業を請負うことができた。また、地域との連携を図ることでイベント出店のお誘いやパン販売での常連客の増加、小物などの買い付け依頼もみられた。今後は更なる拡大を図り利用者の作業スキルの向上、工賃アップにつなげていきたい。

また、利用者意思決定支援、虐待防止、権利擁護、緊急時支援、事業継続計画などマニュアルの改正整備に取り組み、職員研修を充実させることで支援力の強化、きめ細やかな利用者支援を目標としていくことに取り組んだ。

【利用者支援状況】

- ・市内短時間実習 読売センター小金井販売所
- ・内職業者より業務請負 (株式会社エアーージェイ、株式会社 MNH シルクスクリーン)
- ・有限会社石井ホームサービス (不動産業) よりアパート清掃、草刈り作業請負
- ・小金井市内にある真明寺、貫井保育園と清掃契約を結び継続中

- ・小金井市就労支援センターより東図書館壁面装飾依頼を受け製作。工賃に反映
- ・ワークセンターにて制作した日用雑貨品や作品の販売会（小金井市障害者週間イベントに参加し利用者の地域参加、作業収入増に繋がった）
- ・市内青果店から、制作している日用雑貨品の継続した注文があり、利用者の仕事と収入の安定に繋がっている。
- ・利用者就労支援 就労実績 0名
→相談、連絡調整、職場訪問、アフターケア支援は継続して行った。

【施設整備状況】

なし

Ⅷ 事業所名	: 小金井聖ヨハネケアビレッジ（7ユニット）
サービス区分名	: 共同生活援助事業（介護サービス包括型）

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
本町1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
本町2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
本町3	4人	4人	4人	100%	100%	75%
貫井北町	2人	2人	2人	100%	100%	100%
梶野町	7人	7人	7人	100%	100%	100%

平均年齢 52.3歳（最高 80歳、最低 29歳）

男女比率 19名（男性）： 8名（女性） 平均在所期間 10.11月（最長 19年）

年間入所 1名 年間退所 1名

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	7	20	27			1	2	1	2	7	19	26
合計	9	20	29			1	1	1	1	9	19	28

【施設運営状況】

小金井聖ヨハネケアービレッジ5ユニット（本町1・2・3、貫井北町、梶野町）全て定員を満たして安定した運営がされた。新型コロナウイルス対策は昨年度に引き続き徹底して行った。

本町では、日中活動先でコロナ陽性者が出たことにより濃厚接触者となったため5日間待機の健康観察となった人、外部に電車通勤している利用者1名がコロナ陽性となった。梶野町においても複数名の利用者がコロナ発症するが、それぞれ迅速に対応している。

利用者は本人活動の会の復活を心待ちにしていたが、今年度も開催する事ができなかった。男女ともに職員不足が課題であった。

【利用者支援状況】

今年度もコロナ禍で新型コロナウイルス対策を行いながら支援にあたっていたが、7～8月にコロナウイルス陽性者が数名出ており対応。重症化した利用者はおらず、期間内で快復した。

公共交通機関を使用し自力で通所していた利用者が通所途中で転倒し救急車で搬送された。転倒以降は体力的にも機能的にも低下し、自力通所困難と判断。新しい事業所の生活介護に通所変更することとなる。また、家庭の環境の変化により毎週末の帰宅後に家庭からすぐに戻ってこれなくなった利用者があるが、少し時間をかけゆっくと対応をしている。

全体的には比較的落ち着いて生活が出来ていたと思われるので、引き続き感染症対策をしながら利用者みなさんが安心して暮らせる生活空間の提供をしてゆきたい。

【施設整備状況】

- ・ 梶野町 換気扇・ロスナイ清掃
- ・ 本町3 乾燥機購入

IX 事業所名 : 緑町聖ヨハネケアービレッジ (2ユニット)
サービス区分名 : 共同生活援助事業 (日中サービス支援型)

【2022 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
緑町1	9人	9人	9人	100%	100%	88.8%
緑町2	9人	9人	9人	100%	100%	77.7%

平均年齢 55.9歳 (最高 68歳、最低 28歳)

男女比率 9名 (男性) : 9名 (女性) 平均在所期間 1.11年 (最長 1年)

年間入所 0名 年間退所 0名

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	7	8	15							7	8	15
合計	9	8	17							9	8	17

【施設運営状況】

緑町CVは定員を満たしての運営が出来ているが、開所より1年が過ぎ、学園から入居した男性利用者1名が体調不良により6月入院。GHでの生活が難しいと判断し、7月学園に戻る。7月、山梨のGHから1名入居者を迎え、今年度は男性利用者1名のメンバーの変更があった。

昨年に引き続きコロナ禍での感染症対策を徹底して行っていたが、7月～8月にかけて男性・女性ともに新型コロナウイルスに複数名罹患し隔離対応をしている。

職員については女性職員の退職者があり求人を出していたが年度末まで補充できずにいた。今年度後半より月に一度、ボランティアによる介護予防体操を再開した。また、自粛していた見学者の対応を人数制限と感染症対策を徹底した上で再開し、近隣事業所の保護者の会・田無特別支援学校の先生と保護者を受け入れた。

【利用者支援状況】

今年度も新型コロナウイルス対策を続けながら支援を行ってきたが、7～8月にかけてコロナ感染者が出る。発症者を隔離しての看護・支援を行ったが複数名に広がってしまい長期間による対応を余儀なくされ、職員も男女1名ずつ罹患した。

緑町CVでは、特に女性利用者の重度高齢化が進んでおり、身体機能や認知機能の低下が顕著

に見られ、興奮して暴力に繋がるケース等もあった。また、転倒により足を骨折するなど骨粗鬆症の利用者も増え、その都度対応をしている。

拘りの強い利用者に対応できるよう強度行動障害の研修に参加し、利用者の押さえられない行動や犯罪を犯してしまう利用者への対応など全職員で共有し、検討。利用者間の新たなトラブルも続き、試行錯誤しながら支援を積み上げているところである。

余暇活動としては、週末、職員付き添いで近隣への買い物へ行ったり、ボランティアによる介護予防体操へ参加したりと、コロナ以前の行動までとはいかないが少しでも楽しめるよう配慮した。

【施設整備状況】

なし

X 事業所名	: 小金井聖ヨハネ短期入所
サービス区分名	: 短期入所事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
短期入所	4人	—	1.0人	26.0%	28.8%	57.5%

前年度から引き続き感染症対策を徹底しながら受け入れを行った。昨年度は新規契約を控えてきたが、ニーズもある為、少しずつ契約・受け入れを行ってきた。毎月定期的に使われている利用者が定着している。緊急ケースに関しては柔軟に、迅速に対応している。

X I 事業所名	: 緑町聖ヨハネ短期入所
サービス区分名	: 短期入所事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
短期入所	2人	—	0.8人	42.0%	14.7%	0.0%

今年度も感染症対策をしながら男性1床・女性1床での運営。昨年度より虐待ケースで緊急受け入れしていた男性利用者の行先が見つかり6月で短期入所終了となる。以降、短期入所の受け入れはない。定期的な利用者の確保に向け受け入れ態勢を整えたい。女性1床に関しては保護者が病気で倒れて入院以降、生活の場が見つからず6月から長期利用されている方がいる。GHが見つかるまで対応予定。女性に関しては定期的な利用希望の方が2名いるが現在梶野町で対応中。

X II 事業所名	: ふらっとヨハネ
サービス区分名	: 相談支援事業

【2022 年度利用状況報告】

登録者 157 名

【職 員】

	令和 4 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						令和 5 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者		1	1								1	1
相談支援専門員		1	1			1					2	2
合計		2	2			1					3	3

【施設運営状況】

2022 年度の「聖ヨハネ会障害福祉部門東京事業部」の小金井地区と清瀬地区の各事業所を利用されている方を中心に「サービス等利用計画」の作成とモニタリングを実施した。今年度は7月より専従の女性相談員1名が採用となり、専従2名の体制で相談支援を行った。女性相談員の豊富な障害福祉の知識と長い年月に培った連携力を生かして今までにない新たな支援方法が見出されている。相談支援業務は経営面で厳しいとされているが今年度は、専従の相談員2名の体制加算・また採用の相談員が自己研鑽の上、数種の加算対象の資格を取得しているので「ふらっとヨハネ」の毎月の計画作成収入は倍増となり年間の総収入は大幅に増収となり経営的にも躍進した。

【利用者支援状況】

2014年に「ふらっとヨハネ」が発足して以来たくさんの利用者の「サービス等利用計画」を作成してきたが現在の福祉サービスの支援では対応できないケースも増えてきた。

しかし医療サービスを繋げる事で利用者の関りも増えて家族の求めている希望のひかりが少しずつ見つけられようとしている。こうした連携力をさらに強化してその人と家族の人生を支えていきたい。

【施設整備状況】

今年度も「計画相談・ほのぼの more システム」による相談支援利用者全員の「サービス等利用計画の作成」と個人情報を一元化して今後の相談支援に備えている。

- ・ノートパソコン購入

教育研修 小金井

2022/4/1 ～4/7	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	小金井聖ヨハネ支援センター 各事業所	5名
2022/4/1 ～9/30	日本知的障害者福祉協会 オンデマンド研修 第1期 障害のある方への支援（基礎）	WEBによる収録型動画配信	53名
2022/5/23	安全運転講習	小金井聖ヨハネ支援センター及び 各事業所オンライン	23名
2022/6/8	パン工房ボンシュシュ 事業所見学・体験会	パン工房ボンシュシュ 八王子市横山町	1名
2022/6/10	令和4年度 新任職員向け研修	オンライン開催 (zoom ミーティング)	1名
2022/6/13	福祉現場におけるメンタルヘルス ～援助職の「私」と「仲間」と、 その先の存在を大切にするために～	zoomを使用したオンライン研修	1名
2022/6/16	令和4年度 第1回 虐待防止・権利擁護研修	オンライン開催 (zoom ミーティング)	1名
2022/6/29	続・利用者さんが飲んでる薬を知ろう！ - 精神・神経に作用する薬を学ぶ -	zoom ウェビナーによるライブ配信	8名
2022/7/1 ～7/6	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	小金井聖ヨハネ支援センター	1名
2022/7/7	強度行動障害支援 公開基礎講座	オンライン開催 (zoom ミーティング)	4名
2022/7/20	利用者ご家族との信頼を築くコミュニケーションの在り方	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/7/25	BCP策定講座	たましんRISURUホール	1名
2022/7/28	令和4年度 東京都グループホーム制度説明会	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/7/29 ～8/31	第7回ダウン症セミナー 「ダウン症の青年期・ 成人期・高齢期を考える」 支援者向けセミナー	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/8/1 ～8/11	第1回東京都サービス管理責任者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2022/8/22	食品衛生責任者養成講習会	ホテルエミシア東京立川4階	1名
2022/8/25 ～9/20	安全衛生委員会 食中毒防止研修	WEBによる収録型動画配信	70名
2022/8/26	ご利用者の嚥下能力に合わせた食事支援について	オンライン研修 (zoom ミーティング)	3名

2022/8/26 ～10/11	令和4年度 リスクマネジメント研修 ～介護現場における利用者の尊厳を守ったリスクマネジメント～	WEBによる収録型動画配信	2名
2022/8/26 ～10/11	職場内研修担当者になった時に必要な基礎知識 ～人材育成・定着に生かす研修とは～	WEBによる収録型動画配信	2名
2022/8/26 ～10/11	福祉現場におけるハラスメント対応の実務	WEBによる収録型動画配信	1名
2022/9/1 ～9/21	令和4年度障害者グループホーム従事者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信	2名
2022/9/2 &10/7	三年目職員研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	2名
2022/9/5	知的障害を伴わない発達障害の方への支援事例や、 当事者のご家族を含めた支援の実際	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/9/13	B C P 策定講座	西新宿大京ビル	1名
2022/9/13 ～2023/1/17	令和4年度 東京都相談支援従事者初任者研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2022/9/15	事例を通して構造化を学び・活用する	オンライン研修 (zoom ミーティング)	2名
2022/9/21 ～10/5	令和4年度強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習 10/5	1名
2022/9/22	障がい者の働く場 パワーアップフォーラム	オンライン配信 (zoom ミーティング)	2名
2022/9/29	強度行動障害支援メディカルセミナー	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/10/1 ～3/31	日本知的障害者福祉協会 オンデマンド研修 第2期 ソーシャルワークの基礎	WEBによる収録型動画配信	62名
2022/10/3 ～12/16	東京都テレワークなど支援力向上研修 (基礎編)	オンライン研修 (zoom ミーティング)	2名
2022/10/15 ～12/18	知的障害者ガイドヘルパー講座	杉並区役所分庁舎	1名
2022/10/21	令和4年度障害者グループホーム管理者研修	武蔵野市立武蔵野スイングホール	1名
2022/11/2 &11/16	リーダー研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/11/2 ～12/7	第2回東京都サービス管理責任者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	2名
2022/11/18	パン屋さんの就労支援	オンライン配信 (zoom ミーティング)	1名

2022/11/25	障がい者の働く場 パワーアップフォーラム	オンライン配信 (zoom ミーティング)	2名
2022/12/1 ～1/16	令和4年度 第2回 はじめて社会福祉を学ぶ 福祉職員のためのスタートアップ研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/12/1 ～1/16	令和4年度 部下・後輩を育てるコーチング ～質問・傾聴・承認スキルで、援助・支援力を高めよう～	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/12/8	高齢・知的障害者の食事とその支援について ～いろいろな条件で食べる体験を通して、障害のある 方の食事と支援の仕方について考える～	オンライン研修 (zoom ミーティング)	4名
2022/12/8 ～12/21	令和4年度 相談支援・就業支援セミナー	オンデマンド配信	1名
2022/12/9 ～2023/1/16	第1回東京都サービス管理責任者 更新研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	4名
2022/12/14	令和4年度障害福祉サービス等事業者 に対する経営管理研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/1/7 ～1/21	行動援護従事者養成研修過程 (通学)	小金井市障害者福祉センター	1名
2023/1/13	嚥下調整食 学会分類 2021 の実践 ～対象者の状況に合わせた食形態の調整 (手元調理)～	オンライン研修 (zoom ミーティング)	2名
2023/1/19	高齢知的障がい者への支援のあり方 -認知症を中心として-	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/1/20	成年後見制度	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/1 ～2/28	安全衛生委員会 動画「(東京都感染拡大予防研修動画) 事例編(1)」	WEBによる収録型動画配信	66名
2023/2/10	令和4年度新任職員研修 フォローアップ研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/6 ～2/28	虐待防止研修	WEBによる収録型動画配信	66名
2023/2/15	障害のある方と権利擁護 ～成年後見制度を通して～	オンライン研修 (zoom ミーティング) or 小金井市障害者福祉センター	1名
2023/2/15	『震災への備え』～BCP 作成方法～ について	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/22	「私たちの仕事を語ろう！」 ～作業療法士から見た知的障害者福祉現場～	オンライン研修 (zoom ミーティング)	2名
2023/3/10	「障害者支援施設等における高齢・重度化、 強度行動障害への対応を考える」	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/3/27 ～3/28	令和4年度 防火・防災管理新規講習	東京消防庁立川都民防災センター	1名

拠点区分名：障害福祉部門 清瀬

XⅢ 事業所名	：清瀬聖ヨハネ支援センター
サービス区分名	：生活介護事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
生活介護	20人	24人	20.8人	104%	104%	104%

平均年齢 46.4歳（最高 69歳 最低 21歳）

男女比率 13名（男子）：11名（女子） 平均在所期間 7.11年（最長 9.5年）

年間入所 0名 年間退所 0名

【職員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	4	5	9			2		2		4	7	11
調理員		1	1								1	1
医師		1	1								1	1
看護師		2	2								2	2
合計	6	9	15							6	11	17

【施設運営状況】

2022年度は、入退所者がなく昨年度と同じ24名の利用者で一年間活動した。利用率も100%を超え、施設規模からもこれ以上の受け入れは困難な状況にある。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業所内での感染症に関する研修実施や消毒等環境衛生等に努めたが、法人内GHのクラスター等により、7月下旬から8月上旬にかけて2/3の利用者が10日間程度の療養期間を過ごしたため、施設運営にも影響が出た。

【利用者支援状況】

2022年度は、コロナ禍ではあるものの外部機関が実施する行事等が少しずつ増えてきた。利用者の作品については、ボランティアの方の全面協力により2年連続で池袋サンシャインシティの店舗における作品展や23区内の信用金庫等に作品展示されるなど、作品を広める機会が増えたことに感謝申し上げたい。センターの活動は、社会情勢に合わせて少しずつ活動範囲を広げていった。利用者もコロナ罹患時以外は概ね毎日通所された。基本的な活動のはがき作りと創作活動

を継続しつつ一人一人の支援の充実に取り組んだ。

【施設整備状況】

- ・廊下埋込型エアコン取付工事
- ・スタッキングチェア購入
- ・エアコン洗浄
- ・厨房 洗浄機修理

XIV 事業所名	: 清瀬聖ヨハネケアビレッジ (4ユニット)
サービス区分名	: 共同生活援助事業 (介護サービス包括型)

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
下清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
下清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%

平均年齢 49.8歳 (最高 69歳、最低 28歳)

男女比率 14 (男性) : 14名 (女性) 平均在所期間 10.7年 (最長 16.11年)

年間入所 0名 年間退所 0名

【職 員】

	令和4年4月1日 の職員数			年間退任・就任						令和5年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
世話人 生活支援員	8	18	26			1	3	1	3	8	16	24
合計	11	18	29			1	3	1	3	11	16	27

【施設運営状況】

中清戸・下清戸とも定員を満たしての安定した運営ができています。引き続きコロナウイルス対策を徹底して行っていたが複数名の感染者が出て対応している。

利用者の支援についての不信感から虐待通報あり、清瀬市からの聞き取り調査を受けた。虐待認定はされなかったが、支援力不足、慢性的な人手不足などの問題があげられる。

【利用者支援状況】

今年度もコロナ禍で引き続き感染症対策を行なっていたが、7月に中清戸・下清戸ともにクラスターとなり下清戸では男性全員が感染。職員の対応に苦慮した。

毎年の課題であるが重度化・高齢化が進んでいる現状。身体機能の低下も重なり通院も増加傾向である。清瀬C Vは身体的にも障害を持っている利用者が複数名居り車いす対応もある為、介護度が高くなっている。今年度は怪我も多く、骨折者も数名あった。年々重度化が進み、GHでの対応が難しくなっている利用者や環境に適応できなくなっている利用者に対し、市役所や関係機関と相談・連携を図り進めている。

年末頃より利用者の希望に少しでも応えるべく移動支援を入れ、感染に注意をしながら近隣への外出を始め徐々に活動範囲を広げている。

【施設整備状況】

- ・下清戸 トイレ交換
- ・中清戸 日産ノート購入
- ・中清戸 乾燥機購入

X V 事業所名	: 清瀬聖ヨハネ短期入所
サービス区分名	: 短期入所事業

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (R4年度)	利用率 (R3年度)	利用率 (R2年度)
短期入所	2人	—	0.2人	12.8%	10.1%	10.1%

今年度もコロナ対策をしながら男性1床・女性1床で運営。男性は週末利用者が定期的に入っているが、女性利用者は単発での利用のみで男女ともに利用率が低い。女性の新規利用の契約は2名増えたが、今後も特に清瀬市の方に利用していただける様、周知し状況を整えてゆきたい。

教育研修 清瀬

2022/4/1 ～4/7	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	小金井聖ヨハネ支援センター 各事業所	1名
2022/4/1 ～9/30	日本知的障害者福祉協会 オンデマンド研修 第1期 障害のある方への支援（基礎）	WEBによる収録型動画配信	29名
2022/5/1 ～5/5	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	清瀬聖ヨハネ支援センター	1名
2022/5/23	安全運転講習	小金井聖ヨハネ支援センター及び 各事業所オンライン	15名
2022/6/10	令和4年度 新任職員向け研修	オンライン開催（zoom ミーティング）	1名
2022/6/13	福祉現場におけるメンタルヘルス ～援助職の「私」と「仲間」と、 その先の存在を大切にするために～	zoomを使用したオンライン研修	1名
2022/6/16	令和4年度 第1回 虐待防止・権利擁護研修	オンライン開催（zoom ミーティング）	1名
2022/6/24	組織の一員として働く人間関係づくり	オンライン開催（zoom ミーティング）	1名
2022/6/25	知的障害がある人の高齢化への対応 ～認知症に焦点化して	zoomを使用したオンライン研修	3名
2022/6/29	続・利用者さんが飲んでいる薬を知ろう！ - 精神・神経に作用する薬を学ぶ -	zoom ウェビナーによるライブ配信	2名
2022/7/7	強度行動障害支援 公開基礎講座	オンライン開催（zoom ミーティング）	1名
2022/7/20	利用者ご家族との信頼を築く コミュニケーションの在り方	オンライン研修（zoom ミーティング）	1名
2022/7/21	強度行動障害支援 公開基礎講座	オンライン研修（zoom ミーティング）	1名
2022/7/25	B C P 策定講座	たましんR I S U R Uホール	1名
2022/7/26	個人情報漏えい・サイバーリスクメントセミナー ～改正個人情報保護法とサイバーリスクへの対応～	オンライン研修（zoom ミーティング）	1名
2022/7/29 ～8/31	第7回ダウン症セミナー 「ダウン症の青年期・ 成人期・高齢期を考える」 支援者向けセミナー	オンライン研修（zoom ミーティング）	1名
2022/8/1 ～8/11	第1回東京都サービス管理責任者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2022/8/25 ～9/20	安全衛生委員会 食中毒防止研修	WEBによる収録型動画配信	37名
2022/8/26	ご利用者の嚥下能力に合わせた 食事支援について	オンライン研修（zoom ミーティング）	2名

2022/8/26 ～9/20	令和4年度 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2022/9/1 ～9/21	令和4年度障害者グループホーム従事者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信	1名
2022/9/13	BCP策定講座	西新宿大京ビル	1名
2022/9/29	強度行動障害支援メディカルセミナー	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/10/1 ～3/31	日本知的障害者福祉協会 オンデマンド研修 第2期 ソーシャルワークの基礎	WEBによる収録型動画配信	30名
2022/10/3 ～10/7	聖ヨハネ会障害福祉部門 採用時職員研修	清瀬聖ヨハネ支援センター	1名
2022/11/2 ～12/7	第2回東京都サービス管理責任者 基礎研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2022/11/23	発達障害・軽度知的障害者の理解と支援	清瀬市ころぼっくるホール	1名
2022/12/8	高齢・知的障害者の食事とその支援について ～いろいろな条件で食べる体験を通して、障害のある 方の食事と支援の仕方について考える～	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2022/12/9 ～2023/1/16	第1回東京都サービス管理責任者 更新研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	3名
2023/1/6 ～2/22	第2回東京都サービス管理責任者 実践研修	WEBによる収録型動画配信 WEBによる演習	1名
2023/1/11	令和4年度障害者グループホーム管理者研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/1/19	高齢知的障がい者への支援のあり方 -認知症を中心として-	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/1 ～2/28	安全衛生委員会 動画「(東京都感染拡大予防研修動画) 事例編(1)」	WEBによる収録型動画配信	21名
2023/2/10	令和4年度新任職員研修 フォローアップ研修	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/6 ～2/28	虐待防止研修	WEBによる収録型動画配信	41名
2023/2/15	『震災への備え』～BCP さ K 製法～について	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名
2023/2/22 ～2/28	支援技術の基本としての権利擁護	DVD視聴	1名
2023/3/10	「障害者支援施設等における高齢・重度化、 強度行動障害への対応を考える」	オンライン研修 (zoom ミーティング)	1名

2. 高齢福祉部門

【事業概況】

部門の状況については、昨年度に立てた3つの大きな方針、①桜町聖ヨハネホームの運営立て直し②在宅サービスセンター事業の選択と集中③桜町聖ヨハネホームの建て替え等に関する検討、を進めることとした。

①については、組織に空白役職があることや人事問題等を解消して運営を正常化すること、事務管理部の体制を検討していくことについて取り組み、部門全体の職員に対してスタッフシートによるヒヤリングを実施した。人材の発掘に努めるための大きな材料となり、全員ではないが職員各位が考えていることなどを知る機会となった。そのような中2023年1月で前園長が退任することとなり、後任については人材発掘が始まったばかりのところを選定することが難しい一方、外部からの人材を採用することは不安要素もあり採用費用もかかることから、理事長に園長を兼務いただき、運営管理者として園長代行を置くこととした。

また事務管理係については法人本部と業務内容を検証し、これまで過度となっている時間外勤務についての見直しを行った。業務の分担と実施内容を検証することで、今後の削減が期待できるものと思われる。

②についてはこれまでオールインワンの先駆者として多くの事業に取り組んできたことを外部環境などを勘案しながら当法人で実施することと他施設等へおまかせすることを総合的に検討すること、また桜町と本町にあるセンターの在り方を今後検討することを継続的に実施した。事業内容はもとより、人員配置数などを確認した。

③は桜町聖ヨハネホームの建て替えや近い将来改築が必要と思われる桜町高齢者在宅サービスセンターの今後について検討し、東京都社会福祉協議会が実施する特養建て替え意見交換会にも参加した。新年度にさらに詳細な協議を都と実施する予定である。

部門の屋台骨となる組織体制の立て直しについては、かなりの時間を要することと思うが、職員各位の協力を得ながら今年度はかなりの取り組みを実行することができた。新たに介護現場に関する検証を進めるための人材も確保し、次年度以降も継続して取り組む所存である。

新型コロナウイルスについては感染拡大防止への対応に努めながら、利用者・職員の健康に配慮し、可能な範囲での事業活動を継続実施している。面会についても陰圧ブースを導入し新年度から再開していく予定である。工夫と努力を行いながら引き続き最善の注意を払っていきたい。

I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【2022年度 利用状況報告】

種 別	定 員	1日平均 利用者数	利用率 (2022年度)	利用率 (2021年度)	利用率 (2020年度)
介護老人福祉施設	106名	91.8名	86.60%	93.32%	91.3%
短期入所生活介護	8名	7.2名	90.5%	70.90%	62.6%

平均年齢 87.37歳 (最高104歳、最低70歳)

男女比率 1:5 (2023年3月31日現在:96名 内入院2名)

平均在所期間 2年8ヶ月 (最長15年6ヶ月)

年間入所 45名 (2021年度入所:25名・2020年度入所:34名・2019年度入所:17名)

年間退所 50名 (2021年度退所:26名・2020年度退所:33名・2019年度退所:15名)

【職 員】

	2022年3月31日 の職員数			年間入職・退職						2023年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				入職	退職	入職	退職	入職	退職			
施設長	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1
医 師	0	3	3	0	0	0	1	0	1	0	4	4
生活相談員	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2
介護支援専門員	(2)	0	(2)	0	0	1	0	1	0	1	1	2
介護職員	32 (2)	14	46 (2)	12	7	3	8	15	15	28	13	41
看護職員	5	2	7	2	3	1	1	3	4	5	1	6
機能訓練指導員等	1	2	3	0	0	1	1	1	1	1	1	2
管理栄養士	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	2
調理員	5	5	10	0	0	0	0	0	0	5	5	10
事務職員	3	0	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3
生活サポート	0	12	12	0	0	3	5	3	5	0	8	8
用務員	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計	49 (2)	39	88 (2)	16	11	9	16	26	27	46	35	81

※上記表には管理宿直員含まず

※派遣職員 2023年3月31日現在 2名

【施設運営状況】

1. 財務状況について

(単位：千円)

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
当期資金収支差額	▲29,582	10,287	▲14,351	82,462	▲1,223
当期事業収支差額	▲46,072	▲1,513	▲28,559	▲31,022	▲54,565
人件費率	82.4%	74.7%	80.4%	80.4%	83.7%
修繕費	3,569	5,908	3,552	2,161	5,583
減価償却費	29,188	28,435	27,184	25,380	25,439

2022年度は資金収支会計で約29,582千円の赤字、事業活動収支会計は約46,072千円の赤字決算となった。運営方針としては引き続き入院以外の空床期間を無くし、法人内施設の病院との連携を取り、資金を法人内で循環させる様取り組むことや、削減できる費用については段階的に削減した。

支出増の主な要因としては退職者多数の補充を、人材紹介機関経由で採用することが多く、その紹介料の支出増によるものであり、人件費率82.4%がこのことを示している。適正人員で運営出来る体制を構築していくことが急がれるが、昨今の人手不足もあり人材紹介に頼らざるをえないことも事実である。

ここ数年の最大の課題と捉えている収支バランスについて、本年度も残念ながらバランスできている状態とはならなかった。新型コロナウイルス感染によるクラスター発生、断続的な特養の新規入所受け入れの停止、短期入所も受入停止という期間が続き、このことも収益減の大きな要因と言える。具体的には2022年度の平均利用人員は91.8人、利用率は86.6%と2021年度の98.95人、利用率93.32%から大幅減となった。入院は法人内施設の桜町病院への入院が殆どだが、入院による空床の利用を短期入所事業で促進してはいたが、本体である特養の入所が進まなければ安定した収入にはつながらない。一方、年間退所数が50名となり入所が追い付かなかったこともまた理由の一つである。以上のことから、特養に関していえば医療的措置、入院、入所期間の短期間化など現在の状況分析と退所に伴う入所促進のマネジメント、空床が長期間にならないようなベッドの回転など経営に直結する部分の対応を強化するなど、人財の定着に続き安定した収入につながるべく強化すべき部分も明白であるので、この課題も引き続き次年度も取り組んでいきたい。

【利用者支援状況】

〔施設目標〕 桜町聖ヨハネホームを生活の場とされているご利用者様の多様化するニーズに対応したサービスを多職種連携の下、誠意をもって提供する。(サービス)

施設目標としては多様化する世の中や人に対応でき、支援の仕方も多様化＝柔軟に対応できるようにと掲げられたものである。

1. 住み慣れた地域で長く穏やかな生活を支援できるよう、安定したケア・経営を全職員で進める。

住み慣れた地域でずっと生活をしていきたい、またヨハネホームで生活したいと希望されて入所いただくご利用者様も多様化してきている。もちろん受け入れる私たち職員のサービスに対する意識も多様化してきている。しかしサービスの本質は、ヨハネホームの守るべきサービスの本質につ

いては職員が変わろうともその精神は受け継がれていくべきである。安定した経営は、安定したサービスの提供の上に成り立つものであり、そのどちらも欠けてはならない。

安定したケアは、安定した「心」の上に成り立つと考えられる。職員が安心して業務に取り組める環境も必要であり、ご利用者様へ安心安全を担保とした支援を継続して提供できるよう職員全員で互いの思いや考えを共有しそれを具現化していくこと、さらに各々の知識技術を上げていくことで確実な根拠に基づくケアの提供ができる。そして世の中の変化に遅れないような対応も必要である。つまり3年毎の介護保険改定の変化の波に乗り遅れないことが、安定した確実な経営につながることも忘れてはならない。

2. 適切な支援が出来るよう、職員が専門職としての責任感を持ち、自分の役割を果たす。

前述したとおり、職員も多様化してきており入退職のサイクルも短くなってきている。だがそのような中でもできるだけ職員が定着できるよう、仕事を継続していくために職員が目標をもって活躍できるような仕組みや環境づくりも必要である。また職員がご利用者様をサービス提供の中心におき、適切な支援とは何かをしっかりと考え実践できるようになる必要がある。昨今、多職種協同、PDCAの改善のサイクルなど、現場でどのような取り組みができていくかについては会議等でも取り上げられる項目の一つとなっている。確実に行わなければならないことをいかに適切に効率的にできるのか、効率を求めるあまり人として忘れてはならないマナーである「思いやり」や「他者への配慮」を忘れないよう職員が職業人として誇りをもって取り組むことが大切である。つまりそれは専門職として役割を果たせることに繋がる。この点はコロナ禍の間は、職員の教育も研修も不十分であったと言わざるを得ない。今後も引き続き取り組みをしていく。

3. ご利用者様が安心して生活出来るよう、各係が連携・コミュニケーションを円滑にし、組織的に行動する。

業務多忙という中で、効率化や残業につながる余計な仕事を避ける職員の傾向が顕著にみられる。無駄を省き効率化を求めることは業務改善上はよいことと判断されるが、ご利用者様との対話や会話を省いてまで、また要望聴くことを省いてまでの業務効率化はサービスを提供する側としては不適切と言わざるを得ない。介護の世界では、効率化は求めるがあくまでご利用者へのサービスの提供が大切であるので、サービスの中心は「人」とであると説いている。全体の傾向としてコミュニケーションが少ないことが顕在化していたので職員会議を対話の機会とし職員の思いや感じていることを共有する機会を作りコミュニケーションを図る取り組みを行った。効果としてはどうであったか検証が必要であるが、その反面各係の連携のための業務上の連絡や情報の共有、問題意識の共有が不十分であったと思われる。何が必要で不要なのかの取捨選択、優先順位のつけ方、有事の対応の仕方など業務としてのキャリアを超えて組織的に行動することを含めすべてにおいて改善の必要がある。

4. 開かれた施設であり続けるよう、地域のニーズに応えて行く。

2022年度は、コロナ感染症のために地域のボランティアや保育園、中学校等の受け入れを行うことができなかった。唯一目白大学の実習生1名を受け入れることが年度末にかけてできた。地域のニーズ（必要性）に応えることも施設としての役割と考えている。

【特記事項】

〔Ⅰ〕新型コロナウイルス感染状況

新型コロナウイルス感染症は7月に1階フロアでクラスターが発生した。

瞬く間に広がりウィルスの感染力の強さを改めて感じ、感染症対応について反省する点多々あり認識を新たにしたところもあった。その後もコロナ感染症に罹患する職員もご利用者様も発生したが拡大感染を最小限に防ぐこともできたのは、このクラスターという痛い経験からであった。

〔Ⅱ〕緊急ショートステイの受け入れについて

ご利用者は女性12名、男性6名の計18名。延べ利用日数は184日であった。

(前年度 女性9名、男性1名 計10名 延べ利用日数109日)

主な利用目的としては介護者の急病(含むコロナ)、在宅環境の整備(ゴミ、エアコン不良、虐待)、あるいは、本人の体調不良やADLの急激な低下により、家族が介護できないためといったケースが多かった。コロナ療養期間明けということで受け入れたものの、本人の内服薬の影響によりコロナ陽性反応が出て、再度療養期間としての受け入れを強いられケースがあった。このケース以外でも隣に桜町病院があることで、医療連携が出来たケースも多かったといえる。

〔Ⅳ〕入所ご利用者の寝たきり度・認知症自立度について 2023. 3. 31 現在 単位(人)

寝たきり度

	J	A	B	C			計
男性	0	3	13	2			18
女性	1	20	49	8			78
合計	1	23	62	10			96

「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」

ランクJ 何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。

ランクA 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出できない。

ランクB 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体である。

ランクC 1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。

認知症自立度

	自立	I	II	III	IV	M	計
男性	0	2	7	7	1	0	17
女性	4	2	19	49	5	0	79
合計	4	4	26	56	6	0	96

「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」

ランクI 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。

ランクII 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。

ランクIII 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。

ランクⅣ 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。

ランクⅤ 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

〔Ⅴ〕入所ご利用者の要介護度の状況について（前年度末：比）

	《2022. 3. 31 現在》		《2023. 3. 31 現在》	
	男 性	男 性	男 性	前年同日比増減
要介護1	0名	0名	0名	±0名
要介護2	1名	1名	1名	±0名
要介護3	4名	4名	4名	±0名
要介護4	4名	6名	6名	+2名
要介護5	8名	6名	6名	-2名
合 計	17名	17名	17名	±0名

	《2022. 3. 31 現在》		《2023. 3. 31 現在》	
	女 性	女 性	女 性	前年同日比増減
要介護1	2名	2名	2名	±0名
要介護2	4名	4名	5名	-1名
要介護3	14名	14名	21名	+7名
要介護4	31名	31名	27名	-4名
要介護5	33名	33名	27名	-6名
合 計	84名	84名	82名	-4名

【栄養部の取り組み 栄養管理係・総合給食係】

2022年度も、昨年同様に新型コロナウイルス感染症の影響によりご利用者様の活動が著しく制限され、ご家族との面会や外出、行事の縮小化もある中で、栄養係として何が出来るかを検討した。その結果、ご利用者様の健康面では栄養の充実を、生活面では食の楽しみを意識しイベント等も企画・実施した。

地域の方々の低栄養改善の為、摂食嚥下困難者の配食を継続し在宅生活の支援をした。また昨年に引続き、同法人桜町病院の言語聴覚士等の多職種と連携し、適切な嚥下状態の確認、適切なとろみ等の提供を行い、誤嚥性肺炎の予防、低栄養高リスク者の減少などADLの維持に繋がるように努めた。

◎ご利用者様の生の声を聴くために、利用者懇談会での聞き取りや、満足度アンケートを実施。集計、分析をして日々の献立に反映させた。

◎日々の食事を安心・安全に留意ながら提供を行った。またご利用者様の栄養状態を把握し、多職種と連携し食事面からもサポートした。

◎下半期の途中から、手作りケーキを数種類とコーヒーや紅茶を提供するさくらカフェを1ヶ月に1回開催した。コロナ化で外出制限などのストレスを少しでも緩和出来るようにと始動し、毎回大変喜ばれている。

◎加算取得は、多職種と連携し継続して取り組めた。

【施設整備状況】

- 建設後36年を超え、ライフライン関連で高額な設備機械の更新や修繕費対応が近年続いている。
- 耐用年数を超過したものも多く、今期は中でも極めて優先順位の高い設備機械の更新を下記の通り実施した。
 - ・全館冷房チラーはこの数年、不具合発生が頻繁にあったので、まず2階フロアのみ全居室の個別エアコン化工事を6月に実施。(1階フロアは未実施)
 - ・全館ビジネスホン入替工事を4月に実施。
 - ・エレベータ自動着床バッテリー交換工事を7月に実施。
 - ・臥床式機械浴の新規更新を1月に実施。(霞会館助成金を活用100万円)
 - ・介護用電動ベット7台の新規導入を2月に実施。(東京都補助金を活用1/2補助)
- ヨハネホームでは7月下旬より1階フロアが新型コロナ感染症のクラスター状況となった。このため、今後の感染拡大防止の対策として東京都補助金を利用して陰圧ブースの導入を実施した。
 - ・面会用陰圧ブース及びベット用陰圧ブース、全17基を2月に導入実施。
(東京都補助金を活用10/10補助)
- ライフラインである給湯配管などに経年劣化による破損が発見され漏水が発生。都度、調査し緊急修理の対応になった。

特に、地階厨房の更に地下を経由している給湯配管の破損漏水は発見しづらい箇所であり把握と対応が遅れ、給湯の温度低下や水道料金が高額となる結果となった。
- ホームの建物・機械・設備については大規模修繕か全面改築かの判断と実施が喫緊の課題であるが、現存の短期的な修繕・機械設備管理についても財源的な制約もあり今後は十分な検討と実施が必要な状況となった。

1. 主な固定資産取得（器具及び備品・車輛運搬具）

5月	全館ビジネスホン入替	4,136,000円
6月	2階居室個別エアコン化工事	5,060,000円
1月	臥床式機械浴新規入替	7,978,256円
2月	介護用電動ベット7台	2,610,300円
2月	面会用及びベット用陰圧ブース17基導入	27,500,000円

2. 主な修繕費支出

5月	給湯一次循環ポンプ交換工事	293,700円
6月	2階居室個別エアコン化分電盤工事	807,400円
7月	エレベータ自動着床バッテリー交換	420,000円
2月	地下給湯配管の漏水緊急修理	89,100円

【労災状況等】

◎2022/4/19 介護職員 入浴介助中

ストレッチャーの上で、利用者の入浴介助中衣類の着脱のために利用者の上に覆いかぶさるような態勢になった時に右足で胸あたりを蹴られてしまった。強い痛みのため業務が続けられなくなってしまった。

◎2022/7/15 介護職員・医務看護師・相談員 コロナクラスター

1Fフロアでコロナ感染症のクラスターが発生。瞬く間にフロア全体（職員もご利用者様も）に広がってしまった。

◎2022/11/28 介護職員 通勤途上での災害

帰宅途中の道路にて、自転車で走行中道路の段差に引っかかりそのまま横転。痛みはあるものの帰宅するが、左肩と右手の痛みが引かず翌日受診。打撲であった。第三者は関係せず単独の災害であった。

◎2023/2/18 介護職員 利用者居室にて

利用者同士が口論をしていて、止めに入った職員を利用者が追い出そうとしたときに、職員の腕を掴んだ。そのまま扉を締めようとしたときに扉に手を挟まれる。

【研修参加及び実施状況】

<外部研修>

No.	研修名	主催	場所	日程	参加者
1	安全対策体制加算対応研修会	ユニットケア	ZOOM	7/13	介護係長
2	多職種で学ぶライフ加算マネジメント	東京都社会福祉協議会	配信	6/30	事務職
3	ケアプラン作成とライフ加算マネジメント	東京都社会福祉協議会	配信	11/21～ 12/16	介護・栄養・ ケアマネ
4	令和4年度栄養管理講習会	東京都社会福祉協議会	配信	11/28	栄養係
5	災害に関する研修会～熊本地震を体験した介護職員の生の声に学ぶ	東京都社会福祉協議会	配信	11/29～ 12/29	介護係
6	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会	東京都社会福祉協議会	配信	12/1～31	各係主要メンバー
7	生活相談員のソーシャルワークを考える～現代におけるソーシャルワークの存在意義を考える	東京都社会福祉協議会	動画配信	12/23	生活相談員
8	施設利用者の自立支援・重度化予防を支える専門職となるために！	東京都社会福祉協議会	配信	1/16	全職員
9	介護報酬請求事務に関する研修会	東京都社会福祉協議会	配信	1/17～2/16	事務職員

<施設内動画研修>

0.研修の前に		
教育（研修）の目的	11/14～11/19	全職員
記録の目的	11/14～11/19	介護係・医務係
報告の仕方	11/14～11/19	介護係・医務係
1.認知症及び認知症ケアに関する研修		
行動・心理症状（問題行動）はなぜ起こるのか	11/21～11/26	介護係・医務係
認知症の3分類	11/21～11/26	介護係・医務係
認知症の特徴と他職種連携の必要性	11/21～11/26	介護係・医務係
2.プライバシー保護の取り組みに関する研修		
個人情報の取り扱い	11/28～12/3	全職員
3.接遇に関する研修		
介護現場の接遇とは	11/28～12/3	介護係・医務係
介護従事者に求められる気づき	11/28～12/3	介護係・医務係
バイスティックの7原則	11/28～12/3	介護係・医務係
4.倫理及び法令順守に関する研修		
高齢者支援を行う対人援助職の倫理	12/5～12/10	介護係・医務係
5.事故発生又は再発防止に関する研修（福祉用具含む）		
事故発生後の対応	12/5～12/10	介護係・医務係
6.緊急時の対応に関する研修（福祉用具含）		
事故発生時対応	12/5～12/10	
7.感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修		
標準感染予防策	12/12～12/17	全職員
インフルエンザ・ノロウィルス対応	12/12～12/17	全職員
8.身体拘束の排除のための取り組みに関する研修		
身体拘束の基礎知識	12/12～12/17	介護係・医務係
身体拘束の具体策	12/12～12/17	介護係・医務係
9.非常災害時の対応に関する研修		
非常災害時の対応	12/19～12/24	全職員
10.医療に関する教育、研修		
高齢者の病気の特徴	12/19～12/24	介護係・医務係
体温の異常と熱中症	12/19～12/24	介護係・医務係
11.ターミナルケアに関する研修		
死を直前にしたケアのポイント	1/16～1/21	介護係・医務係
看取りとは	1/16～1/21	介護係・医務係
12.精神的ケアに関する研修		
対人トラブルの心理学	1/16～1/21	全職員
13.高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関する研修		
不適切ケアと虐待／ことばの影響	1/23～1/27	全職員

その他・ターミナル委員会により研修 2023.3.14 実施

II 桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業

栄養事業（給食・さくら配食）

小金井きた地域包括支援センター（小金井市委託事業・介護予防支援）

【2022年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (2022年)	利用率 (2021年)	利用率 (2020年)
介護保険事業	通所介護(一般・予防・総合事業)	30名	9,210	8,400	27.4	91.2%	74.7%	77.4%
	通所介護(認知)	24名	7,368	4,641	15.1	63.0%	61.7%	61.9%
	訪問介護	110名/週	5,720	4,693	15.2	82.1%	87.6%	106.6%
	訪問入浴	7名/週	364	427	8.2	117.3%	85.4%	80.6%
	居宅介護支援	160件/月	1,920	1,940	161.7/月	102.1%	102.1%	102.7%
	予防・総合事業 プラン	305件/月	3,660	3,884	323.7/月	106.1%	99.3%	95.7%
栄養事業	給食	35食	10,745	11,244	36.6	84.9%	84.9%	83.4%
市委託事業	やすらぎ支援	年間延派遣回数 110回 利用者数 7名 支援員登録数12名						

【利用者の動向】

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 通所介護（一般・総合事業）

2022年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	203	955	665	3,335	1,978	820	378	0	8,334
割合	2.4%	11.5%	8.0%	40.0%	23.8%	9.8%	4.5%	0.0%	100.0%
2021年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	222	1,021	601	2,704	2,148	300	194	52	7,242
割合	3.1%	14.1%	8.3%	37.3%	29.7%	4.1%	2.7%	0.7%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

2022年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	1,218	1,336	866	657	565	4,642
割合	0.0%	0.0%	26.2%	28.7%	18.7%	14.2%	12.2%	100.0%
2021年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	1,253	1,092	1,124	779	299	4,547
割合	0.0%	0.0%	27.6%	24.0%	24.7%	17.1%	6.6%	100.0%

【職員】

	2023年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2022年4月1日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
就任				退任	就任	退任	就任	退任				
センター長	1名		1名					0	0	1名		1名
事務長			0名					0	0			0名
介護員	1名	10名	11名			3	1	3	1	1名	8名	9名
相談員	10名		10名	2	1	0	1	2	0	9名	1名	10名
看護師		6名	6名					0	0		6名	6名
介護支援専門員	3名	3名	6名	1	2	1		2	2	4名	2名	6名
訪問介護員		10名	10名			1	1	1	1		10名	10名
運転員		5名	5名			3	2	3	2		4名	4名
栄養士	1名	1名	2名							1名	1名	2名
調理・補助・宅配		5名	5名			1	1	1	1		5名	5名
機能訓練指導員		2名	2名					0	0		2名	2名
事務員		2名	2名					0	0		2名	2名
高齢住宅管理人		6名	6名			1	1	1	1		6名	6名
清掃員		2名	2名					0	0		2名	2名
合計	16名	52名	68名	3	3	10	7	13	10	16名	49名	65名

【施設運営状況】

(1) 財務について

2022年度も財務改善に向けて利用率回復に取り組んだ。2020年度～2021年度に比べ新型コロナウイルスの影響による利用控えや長期欠席はほとんどなく、コロナ感染と共存していく意識が芽生えたと感じる1年であったが、施設内で利用者や職員に感染者が出たり、濃厚接触者になったことによる事業への影響は引き続き大きなものがあった。

センター事業の選択と集中を目指し、4月からのさくら配食の事業撤退、訪問入浴事業の縮小を実施し、事業の効率化・人材の有効活用を進めた。

桜町センター全体の収入は予算値（二次補正予算値）260,718千円に対して実績値は261,115千円（執行率100.2%）であった。

支出面では、時間外労働の削減や事務費・事業費の削減に取り組み予算値（二次補正予算）260,055千円に対して実績値は254,858千円（執行率98.0%）となり支出削減はある程度効果的に行えた。

結果、2022年度桜町高齢者在宅サービスセンター事業全体の当期活動増減差額は914千円の赤字、当期資金収支差額は7,785千円の黒字となった。

収支状況の総括は下記の通りである。

- ① 一般型通所介護事業の利用率の向上（積極的な受入の実施）
- ② 認知症対応型通所介護の利用率の伸び悩み（SS利用や入所が原因）
- ③ 訪問介護事業の人員不足による利用率の低迷
- ④ 人件費の高騰

⑤ 水光熱費、燃料費、給食費（食材費）の高騰

(2) 組織力向上・人材育成への取り組み

高齢福祉部門の組織力向上について経営会議・運営会議・職員会議を中心に取り組んだ。係間や職員間の組織的なコミュニケーション不足は引き続き大きな課題となっている。今後も職員が同じ方向を向いて主体的性をもって課題に取り組むことのできる関係づくり・人材の育成を目指したい。

- 1) センター長による職員面談の実施
- 2) 係長による職員面談の実施
- 3) フィットティングサポートの継続的实施
- 4) 小金井市介護事業者連絡会への参加
- 5) 法人本部によるスタッフシートを活用した人材育成（面談→課題抽出）
- 6) ハローワーク合同就職説明会の開催
- 7) 看護師合同就職説明会の開催
- 8) 永年勤続表彰の実施
- 9) 経理・総務業務の法人本部統合への一本化

(3) サービスへの取り組み

※【利用者支援状況で取り上げ】

【利用者支援状況】

(1) リスクマネジメント

1) 利用者事故発生事例

- ・大きな介護事故発生事例はなし。
- ・4月と10月に服薬忘れの事案あり（通所介護）。

2) ヒヤリハット

通所介護では、2021年度も年間を通してヒヤリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。2022年度に事例として挙げられたヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

- ・送迎（15件）
- ・入浴（3件）
- ・転倒・移動（10件）
- ・服薬（3件）
- ・食事（7件）
- ・物品返却忘れ（4件）
- ・他（15件）

※事例の共有・改善策の実施は、事故や苦情を未然に防いでいると考えられる。また、職員の責任感や緊張感をもった対応にもつながっている。

3) 苦情

- ・4月利用者へのケアに関する苦情（通所介護）
⇒係内ミーティングで対応改善を検討・実践する。
- ・1月利用者への声掛けの仕方に関する苦情（通所介護）
⇒利用者の精神的不安定さが原因であった。利用は中止となり他の通所介護利用となる。

4) 新型コロナウイルス感染症について

① 施設としての対応

- ・ご利用者様受入れの際の感染症予防対策の実施
- ・職員健康管理の徹底
- ・職員が感染した場合、濃厚接触者となった場合の労務の取り決め
- ・外部事業者・ボランティア等入館時の健康状態確認
- ・新型コロナウイルス感染症マニュアルの更新
- ・抗原定性検査キットによる東京都集中的検査の週2回実施

② ご利用者様・職員感染事例

A: 経過

- ・8/1（月）認知症対応型通所介護利用者1名から、来所後発熱と咳症状がみられる。家族の都合で早帰りが出来ず、職員2名が別室にて対応する。
- ・8/4（木）上記利用者が新型コロナ陽性と診断される。
- ・対応に当たった職員2名も風邪症状が出現し、8/5（金）新型コロナウイルスと診断される。

B: 感染者のその後

- ・感染した1名の利用者、2名の職員ともに、隔離期間を経て体調が悪化することもなく回復。

C: 考察

- ・風邪症状が出現した利用者をすぐに帰宅させることが出来ず、
- ・認知症があり理解力が低いため、帰宅までの間、職員が寄り添ってケアをせざる得ない状況があったことにより職員に感染した。
- ・すぐに隔離状態を取れたため、他の利用者への感染を防ぐことが出来た。

(2) サービスへの取り組み

施設重点取組事項の振り返り

1) 通所介護・受託事業係

① 一般型通所介護・認知症対応型通所介護・総合事業通所型サービス

- ・入浴希望のある方の受入れ、手づくりの温かい昼食等をアピールしながら積極的に新規の受入をおこなった。特に一般型通所介護のニーズは高く昨年度に比べ高い利用率を達成することができた。認知症対応型通所介護においては、入院・入所・ショートステイ利用が多いことが主な理由で目標数値を達成できなかった。
- ・次第にご利用者様もコロナ禍の状況にも慣れた様子で、利用控えは少なかったが、感染や濃厚接触が理由で長期に利用を休まれるか方は一定数おり、利用率への多少の影響はみられた。
- ・利用率を可視化することと、毎月行われる常勤ミーティングで共通認識をもつことで常に利用率や利用人数を意識するようになっている。
- ・「イベントボランティア」や「活動ボランティア」の受入れは、コロナの状況を見ながら通常通り実施。利用者様のゆしみや職員の負担軽減にも繋がっている。
- ・8月には、認知症対応型通所介護の利用者1名がサービス利用中に発熱と咳症状があり、コロナ陽性と判明。その利用者の対応をした職員2名がその後風邪症状が出現しコロナ陽性と診断される。
- ・自主的に考え行動できる職員と指示待ち職員との差が目立ち、職員間のコミュニケーションの部分についても課題があり人材育成の難しさを痛感している。

② 地域支援事業（小金井市受託事業）

<やすらぎ支援事業>

2022年度末現在12名のやすらぎ支援員が登録しており、うち5名が訪問活動中である。現在7名のご利用者様が事業を利用されている。新型コロナウイルスによる影響は多少あったが、基本的にはご利用者様のご自宅を訪問し見守り。傾聴を実施した。また支援員とは、担当職員が電話を通じてご利用者様の状況確認や指導、情報交換を行い、3月には支援員懇

談会も実施した。

また、認知症サポーター養成講座の事務局機能も委託されており、適切なオレンジリング・テキストの在庫管理に努めた。

<家族介護教室>

感染予防対策を講じたうえで、「高齢者の排便管理」をテーマとして3月24日に7名の方が参加され開催した。皆関心を示し大変好評であった。

<サブスタッフ養成・活動事業>

新型コロナウイルス感染により休止していた「サブスタッフ養成事業」10月～1月にかけて3年振りに実施し、1名の方が受講された。

サブスタッフ活動については、今までに養成講座を卒業された計5名の方が、桜町センター総合事業通所型サービスの「サブスタッフ」として、ご利用者様支援のための活動を行った。

③ グリーンタウン高齢者住宅管理（小金井市受託事業）

現在70世帯85名の入居者を対象に管理人6名で、月曜～土曜の日中帯に巡回や安否確認の管理業務を行っている。管理人とご入居者様との信頼関係は良好で、関係機関とも連携を密にとることで安全に安心して生活できる環境づくりに貢献出来た。

2) 訪問サービス係

① 訪問介護

- ・長年、当事業所を支えてきたサービス提供責任者2人（非常勤）が役を外れることになり、4月と7月に新たなサービス提供責任者を置くことになった。

新体制下では、法令の認識不足や実務経験不足により、利用者様・ご家族様・関係者各位にご迷惑をお掛けすることもあったが、事故や苦情もなく年度を無事に終えることができた。

ヘルパー検討会も感染予防のため、時間短縮・隔月開催とヘルパー間の交流機会が減少傾向であったが、チームワークは保つことができた。

新型コロナ感染症予防のために会議を減らしや会議の時間も短縮してきたため、所内研修も満足にできていないが、コロナ収束に伴い、高齢者虐待防止、感染症対策、認知症のケアといったニーズに合う研修の機会を次年度は設けていきたい。

- ・サービス提供責任者2名が退職し、段階的に新たな担当者に移行したが、ベテランヘルパーの退職や契約変更もあり、人員体制は厳しく新規の依頼があっても派遣枠を増やせない状況がある。
- ・利用者の要望には介護保険でお応えできないケースがあり、そのようなニーズに対して、原則・例外（法令順守）と利用者の心身状態と取り巻く環境面に焦点を当ててヘルパー検討会で意見交換を行い、どうしたら利用者自身の要望が例外として認められるようにできるか、各ヘルパーに意見を出してもらった。その検討結果を担当ケアマネージャーに相談、提案し、調整の上、例外で対応できるようになった。この提案は複数の利用者ニーズに応え、自立支援を促す結果となり今後も活かされる事例となった。

② 訪問入浴介護

事業縮小の方針のもと、利用者様・ご家族様の生活に支障が出ない様に、他サービス関係者のご理解と協力のもとに計画的に実施できた。

- ・事業縮小と新規受け入れ中止については、サービス利用中の担当居宅介護支援事業所に

はお知らせし、新規の相談がある度に事情を説明しご理解頂いている。

- ・新規相談受付の中止以降にも修道院から相談・要請あり、管理者判断でサービス提供を実施している。
- ・年度末現在で、看護 2 名、介護 3 名のスタッフで運営維持、機材や車両は消耗に応じてメンテナンスを行っている。
- ・主治医・関係機関との情報共有で MCS 活用する機会が増えている。

3) 栄養係

重点取組項目に関しては今までも取り組んできた土台もあり、概ね達成および実現できていると感じる。イベントや調理レク等の企画は通所と協働し実行できたと思うが、栄養係が主体では出来ておらず、満足度アンケートの実施や BCP の作成にも至らず次年度以降に向けて、取り組むべき課題である。

支出削減については業者を追加契約し、発注作業を細かく行うも新型コロナや鶏インフルエンザ、ウクライナ情勢等の影響により根本的な食材料の値上げが大きな打撃となっている。小金井市の助成や利用料の値上げはあるものの、来年度以降も引き続き食事単価は厳しい状況である。

また、福利厚生を趣旨としたヨハネホームの職員食は、通年して実施できている。

4) 居宅介護支援係

①利用者の課題を把握し、課題解決に向けて取り組むことに関して

- ・昨年に引き続き、みずたま介護ステーション、介護プランセンターこきん、SOMPO ケア、4 事業所合同の事例検討会を戸塚ホールで開催した。検討会終了後、コロナウイルスの流行が落ち着くようであれば次回からは地域の他の事業所にも参加を呼び掛け、広く地域貢献していくべきではないか、という意見もあった。
- ・支援経過を入力しておくことも大事だが、日ごろから問題になっていることなどを口頭で共有しておくとの担当者でもスムーズに対応できると感じた。

②コロナ禍における安全なサービスの提供に関して

- ・コロナ禍により人と会うことを怖がる利用者・家族への対応として、モニタリングを電話やメールで行ったり、担当者会議を照会に替えたりしてきたが、感染者が減ってきた後半にはこのやり方を続けてもいいのか迷うこともあったが、感染についての感じ方、恐怖心は個人差があるので、利用者によって判断した。
- ・コロナ感染に伴う緊急対応など、担当不在のときでも記録等を参照しながら対応できた。

③数値目標に関して

- ・通年では目標数値を達成できた。減算はなかった。

5) 地域包括支援係 (小金井きた地域包括支援センター)

①「業務の効率化・合理化を図り、働きやすい職場をつくることに関して

- ・直プランの増加や委託事業との兼ね合いもあり、困難ケースや虐待対応は経験のある職員で引き続き対応した。プランは均等に分けず、事業を担当していない職員に多めに受けてもらうなどで調整した。個々の業務以外でも関連する事業の担当とは声を掛け合い協力し合うようになり、昨年度課題であった「連携」は少し改善できた。職員の入替え、プラン作成未経験者の入職が続き、基礎からの人材育成は現在の包括では難しく課題が残る。

②「コロナ禍でも安心して通える場の体制づくりと新たな資源の掘り起こしを地域の住人と共に進めていく」ことに関して

- ・コロナ禍で集うことが難しい状況が続く中、ネットワークづくりにおいては、市が主催する

スマホ講座を生活支援コーディネーターが案内し、オンライン会議やスマホの普及啓発に努めた。

- ・サロン以外にも公民館や市の体育館で行っている活動、運動などをリサーチし、介護予防の新たな活動場所として情報収集を進めた。
- ・認知症に対する取組みとしては認知症推進員を中心に認知症サポーター養成講座を地域の方々向け、市職員向けに実施した。
- ・「認知症カフェ」について、感染対策を十分行った上で毎月開催している。今年度からは会場を桜町センターに変更し、毎回 20 名程度の参加となっている。年度途中よりペットボトルと個包装の菓子の提供を始めたが、口を付ける人が少なく課題となっている。運営協力をしてくれるボランティアも 2 名ほど確保できた。

③住み慣れた町で安心して暮らし続けられるよう支援体制を強化する。

- ・前年同様医療と介護の連携会議をはじめ、他の研修・会議への参加は基本オンラインで、直接顔を合わせる機会は少なかったができる限り参加した。
- ・昨年からは認知症検診がスタートしたが、市民から認知症に関する問い合わせが増えた。点数的には問題ない方でも本人、家族が更なる検査や受診を希望された場合は桜町病院や菊地脳神経外科などを紹介し、専門医へ繋げることができた。

2022年度 在宅サービス部 利用実績集計表 (桜町高齢者在宅サービスセンター)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
通所介護	通所介護 営業日数	26	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	307	
	1日 定員30名 (目標24名/日)	780	720	780	780	810	780	780	780	750	720	720	810	9,210	
	実利用者人数	65	65	66	67	71	70	71	71	72	70	67	68	69	
	延利用者数合計	520	468	523	549	536	554	592	618	595	556	552	611	6,674	
	延利用者数(一般)	512	461	510	537	530	545	576	604	578	536	529	586	6,504	
	延利用者数(現行相当型)	8	8	13	12	6	9	16	14	17	20	23	25	171	
	登録者数	66	71	72	73	69	73	76	76	76	78	75	73	73	
	新規者数	6	2	2	1	8	3	3	1	3	2	1	1	33	
	終結者数	3	0	1	0	3	3	1	1	1	4	3	2	22	
	月利用率	66.7%	65.0%	67.1%	70.4%	66.2%	71.0%	75.9%	79.2%	79.3%	77.2%	76.7%	75.4%	72.5%	
	認知症対応型 営業日数	26	24	26	26	27	26	26	26	26	25	24	27	307	
	1日 定員24名 (17名/日)	624	576	624	624	648	624	624	624	600	576	576	648	7,388	
	実利用者人数	41	43	44	46	45	45	44	47	45	40	40	43	44	
	延利用者数	362	377	404	402	425	406	402	408	391	349	334	381	4,641	
	登録者数	44	46	47	46	45	45	45	47	45	41	41	43	45	
	新規者数	3	2	2	3	0	0	0	1	0	0	1	3	15	
	終結者数	1	1	1	3	0	0	0	2	3	2	1	1	15	
	月利用率	58.0%	65.5%	64.7%	64.4%	65.6%	65.1%	64.4%	65.4%	65.2%	60.6%	58.0%	58.8%	63.0%	
総合事業通所型(市基準) 営業日数	20	19	22	20	22	20	20	20	21	19	19	22	244		
1日 定員10名(金20名)(目標7名/日)	240	230	260	250	260	240	240	240	250	230	230	270	2,940		
実利用者人数	32	33	35	35	35	34	35	36	35	33	34	35	34		
延利用者数	137	136	149	136	148	140	135	148	139	135	142	181	1,726		
登録者数	33	34	34	36	34	34	32	34	33	33	32	33	34		
新規者数	1	2	3	4	2	0	3	1	1	1	1	0	19		
終結者数	0	0	0	4	0	0	1	1	1	1	1	1	10		
月利用率	57.1%	59.1%	57.3%	54.4%	56.9%	58.3%	56.3%	61.7%	55.6%	58.7%	61.7%	67.0%	58.7%		
訪問入浴	訪問入浴 営業日数	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	5	52	
	目標件数 7.0件/日 1日/週	35	28	28	35	28	35	28	28	28	28	35	364		
	延入浴件数	52	39	41	39	40	28	23	26	36	35	34	34	427	
	延清拭件数	2	0	0	1	0	1	2	0	0	1	1	0	8	
	登録者数	11	11	10	8	7	7	6	6	6	7	7	7	7.8	
	新規者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	終結者数	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	5	
	月利用率	154.3%	139.3%	146.4%	114.3%	142.9%	82.9%	89.3%	92.9%	128.6%	128.6%	125.0%	97.1%	119.5%	
	訪問介護	訪問介護 営業日数	26	24	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	307
		目標件数 110件/週	485	448	485	485	504	485	485	485	466	448	448	504	5,726
延派遣件数		379	371	393	387	398	408	388	390	377	364	384	454	4,693	
登録者数		52	51	52	52	55	55	54	55	59	58	60	60	55.3	
新規者数		0	1	3	1	4	0	2	3	5	1	2	0	22	
終結者数		2	2	1	1	0	3	1	1	2	0	0	0	13	
月利用率		78.2%	82.9%	81.0%	79.8%	79.0%	84.1%	80.0%	80.4%	80.9%	81.3%	85.8%	90.2%	82.0%	
居宅支援	介護プラン作成件数 実績	153	157	157	161	163	164	165	165	167	162	163	163	1,940	
	160/月 新規	3	4	3	4	6	6	3	4	4	5	4	6	52	
	終結	0	0	0	1	1	1	6	3	1	6	4	2	25	
	法人紹介率 一般通所 合計	27/84	29/87	30/87	30/89	30/86	30/87	31/89	32/86	34/91	34/90	34/91	35/90		
	桜町	25	27	27	27	28	28	29	30	32	32	31	32		
	本町	3	3	4	4	3	3	3	3	3	4	5	5		
	認知通所 合計	27/30	27/30	28/31	29/32	29/32	29/32	27/30	27/30	28/31	25/28	25/28	25/28		
	桜町	22	22	24	25	26	26	27	24	24	21	21	21		
	本町	6	6	6	5	4	4	3	4	5	5	5	6		
	訪問介護	13/59	12/60	11/57	12/60	14/60	15/63	14/65	15/67	15/68	14/70	20/68	14/65		
	訪問入浴	4/7件	3/6件	3/6件	3/6件	2/4件	2/5件	2/5件	2/5件	2/6件	3/6件	3/6件	2/5件		
	訪問看護	13/42	12/43件	11/42	12/45	12/47	13/51	9/47							
短期入所	6/23件	6/25件	8/29件	8/27件	9/27件	8/28件	8/29件	10/32	8/28件	5/25件	7/27件				
認定調査件数 他市含 4/月	3	4	3	5	4	4	4	4	4	2	4	4	45		
包括支援	介護予防・総合事業プラン件数計 305件/月	313	310	324	320	313	325	331	331	329	327	328	333	3,884	
	直営件数 230件/月	242	239	251	247	240	253	260	258	255	253	254	259	3,011	
	直営新規件数	5	7	12	8	6	10	7	7	7	4	5	11	89	
	直営月利用率	105.2%	103.9%	109.1%	107.4%	104.3%	110.0%	113.0%	112.2%	110.9%	110.0%	110.4%	112.6%	109.1%	
	委託件数 75件/月	71	71	73	73	73	72	71	73	74	74	74	74	873	
	委託新規件数	4	0	4	1	2	2	2	4	3	2	3	2	29	
委託月利用率	94.7%	94.7%	97.3%	97.3%	97.3%	96.0%	94.7%	97.3%	98.7%	98.7%	98.7%	98.7%	97.0%		
栄養事業	市食の自立(受託)配食 営業日数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293	
	目標食数 4食/日	100	92	104	100	104	96	100	96	96	92	88	104	1,172	
	利用者実人数	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	6	
	延食数	112	127	143	133	139	131	112	119	95	103	100	111	1,425	
	市食の自立配食月利用率	112.0%	138.0%	137.5%	133.0%	133.7%	136.5%	112.0%	124.0%	99.0%	112.0%	113.6%	106.7%	121.5%	
給食数 (通所昼)	874	836	964	931	950	952	980	1,018	976	899	879	985	11,244		
利用者実人数	8	6	5	5	5	3	3	5	3	4	5	5	4.8		
やすらぎ支援	延派遣回数	10	10	12	8	8	9	9	10	8	8	9	9	110	
	支援員登録数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.0	
ボラ	ボランティア総回数(生活)	45	43	47	37	43	38	31	34	28	28	31	35	440	
	ボランティア総回数(教養)	35	27	36	27	25	39	30	14	26	28	34	41	362	

【施設整備状況】

(1) 概況説明

設置後 32 年が経過しており、ボイラー・ポンプ・厨房機器など様々な設備・備品に修繕・メンテナンスの必要が出ている。また、リモート会議や研修も多く開催されることからパソコンなどの整備も必要である。施設全体の状況を把握し優先度を決めたいうで計画的に整備を進めていく必要がある。

(2) 主な購入物品

2022 年 6 月	天井吊型エアコン（さくらんぼ室）	553,300 円
2022 年 8 月	ノートパソコン×2	187,660 円
2022 年 10 月	車載デジタル無線機×3※	287,100 円

※センター送迎車両全車デジタル無線化完了

(3) 主な修繕費等

2022 年 5 月	真空式温水ヒータ部品交換	165,000 円
2022 年 6 月	厨房洗浄機ガスブースター交換修理	227,700 円
2022 年 8 月	給水ポンプ水漏れ修理	209,000 円
2022 年 11 月	真空式温水ヒータ部品交換	154,000 円
2022 年 12 月	エレベーター冠水修理※	158,400 円

※エレベーター機械室内に水が浸入し動作不能となる。雨水排水ポンプが作動しておらず行き場を失った雨水が機械室内に侵入したことが原因。

2022年度 研修実施一覧表（期間 2022/4/1～2023/3/31）

（部署名 桜町高齢者在宅サービスセンター）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
4月22日	総合	小金井介護事業者連絡会(総会)	WEB	鈴木 治実
11月16日	虐待防止	高齢者虐待防止研修(居宅系サービス向)	ルネ小平	鈴木 治実
11月24日 他2日	虐待防止	高齢者虐待防止伝達研修	桜町センター1階	全職員
12月	総合	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修	WEB	介護職員
1月6日	ソーシャルワーク	生活相談員のソーシャルワークを考える	WEB	秋山 仁
1月20日	総合	小金井介護事業者連絡会(通所グループ会)	WEB	鈴木 治実
1月28日	総合	福祉系在宅サービス事業集団指導研修	WEB	鈴木 治実
3月9日	危機管理	BCP作成のための研修	WEB	鈴木 治実
3月15日	管理	安全運転管理者研修	WEB	鈴木 治実
3月16日	危機管理	BCP作成のための研修	WEB	鈴木 治実
3月27日	感染症	感染症予防研修	桜町C1階	全職員

（部署名 桜町ホームヘルプステーション）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2/1 ～2/28	介護	東京都国民保険団体連合会主催 介護サービス事業所支援研修 「介護サービスにおける認知症利用者のケアについて」(90分) 講師: 東京慈恵会医科大学精神学講座教授 繁田 雅弘 氏	センター内(C) または自宅(J)	蛭本美佳(C:2/9) 織茂成美(J) 服部正子(C:2/16) 大久保真弓(J) 後藤奈保美(J) 坂田伸子(J) 新岡里子(C:2/13) 上館まさ子(C:2/15)
3/7	介護	「介護事業者のためのBCP 作成セミナー」	センター内	志藤 将

（部署名 居宅介護支援）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
8月18日	リスクマネジメント	ワイズマン ハラスメント対策オンラインセミナー 第2回 「居宅介護支援事業所におけるカスタマーハラスメント対策」	オンライン	金丸 直子
9月14日	医療	第25回 在宅医療ケア勉強会 「訪問診療ってどんなことしているの？コロナ禍でどう変わった」	オンライン	高野 満知子
11月18日	総合	令和4年度第1回小金井市介護支援専門員研修 「身寄りのない一人暮らし高齢者へのアプローチ」	萌え木ホール	塩田 美紀 森川 靖枝
2月11日	認知症	令和4年度介護サービス事業者支援研修 「介護サービスにおける認知症の利用者のケアについて」	オンライン	高野 満知子
2月27日	医療	令和4年度多摩府中保健所歯科保健事業 「いま改めて摂食嚥下機能を学ぶ」	オンライン	遠藤 直美

(部署名:小金井きた地域包括支援センター)

日付	分類	研修内容	場所	氏名
5/31～ 7/7	ケアマネ	介護支援専門員更新研修専門Ⅱ	オンライン	高野 美子
7/20	ケアマネ	C-MATR4年度第1回オンライン研修「精神疾患の理解と面接技法」～かかわり方の距離感・思考過程のポイントを学ぶ	オンライン	高野 美子
7/15、29	生活支援	生活支援コーディネーター初任者研修	オンライン	松村 麻依子
8/20	ケアマネ	C-MAT令和4年度第2回オンライン研修「スーパービジョンの基礎的理解①」～スーパービジョン総論～	オンライン	高野 美子
8/26、 9/15、 10/19、 12/2、 1/20、2/15	生活支援	生活支援コーディネーター現任者研修(計6回)	オンライン	松村 麻依子
9/1～ 9/16	虐待	令和4年度区市町村職員等高齢者権利擁護研修 擁護者による虐待対応研修(基礎研修)	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル/小田急第一生命ビル	及川 彩子
10/27	精神保健	精神保健福祉研修(後期)	オンライン	佐伯 良子
10/28	認知症	令和4年度第1回東京都キャラバン・メイト養成研修	新宿NSビル 30階スカイカンファレンスルーム	松村 麻依子
11/18	ケアマネ	令和4年度第1回小金井市介護支援専門員研修「身寄りのない一人暮らしの高齢者へのアプローチ」～地域生活課題の把握とケアマネジャーが持つべき視点～	小金井市商工会館・萌え木ホール3階A会議室	高野 美子
11/25	認知症	第3回東京都キャラバン・メイト養成研修	新宿NSビル 30階スカイカンファレンスルーム	及川 彩子
11/30	ケアマネ	「セルフネグレクトと社会資源」～無縁から自尊・他尊の実現へ～	オンライン	高野 美子
11/30	ケアマネ	「セルフネグレクトと社会資源」～無縁から自尊・他尊の実現へ～	オンライン	中川 麻砂子
12/13	ケアマネ	令和4年度包括主催ケアマネ研修「ケアマネジャーのハラスメント対策」	オンライン	高野 美子
12/13	ケアマネ	令和4年度包括主催ケアマネ研修「ケアマネジャーのハラスメント対策」	オンライン	中川 麻砂子
1/16	ケアマネ	令和4年度市主催ケアマネ研修「ケアプラン作成に求められるアセスメントと課題分析」	小金井市商工会館・萌え木ホール3階A会議室	高野 美子
1/16	ケアマネ	令和4年度市主催ケアマネ研修「ケアプラン作成に求められるアセスメントと課題分析」	小金井市商工会館・萌え木ホール3階A会議室	中川 麻砂子
1/17	認知症	令和4年度若年性認知症企業向け研修会	オンライン	佐伯 良子
1/25、2/8、 2/22、3/1	ケアマネ	介護支援専門員専門研修2	オンライン	中川 麻砂子
2/28、 3/7	生活支援	令和4年度自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践のための講師養成研修(アドバイザー養成研修)	オンライン	松村 麻依子
3/2	生活支援	令和4年度生活支援コーディネーター現任者研修Ⅱフォローアップ研修	飯田橋レインボービル2A会議室	松村 麻依子
3/10～ 3/28	ケアマネ	介護支援専門員専門研修2	オンライン	佐伯 良子
3/14	ケアマネ	C-MAT令和4年度大規模研修「当事者から支援者に伝えたいこと」	オンライン	高野 美子
3/14	ケアマネ	C-MAT令和4年度大規模研修「当事者から支援者に伝えたいこと」	オンライン	中川 麻砂子
3/17	ケアマネ	令和4年度包括主催ケアマネ研修「看護小規模多機能定期巡回・随時対応夜間対応」についての事例発表及び利用に関する制度説明	小金井社会福祉協議会2階会議室	高野 美子

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

【令和4年度利用状況報告】

1. 事業別利用率状況（3か年の推移）

種別	定員	1日平均利用者数	利用率（R3）	利用率（R3）	利用率（R2）
通所介護（一般・予防）	25名	20.2名	80.6%	88.4%	91.9%
認知症型通所介護	12名	8.9名	74.2%	82.1%	78.8%
食の自立支援事業	80名	83.3名	104.1%	103.1%	106.5%

（1）通所介護（予防型・一般型）

①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	23	0	204	226	171	15	10	649
割合	3.5%	0.0%	31.5%	34.9%	26.3%	2.3%	1.5%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	83	0	1830	2363	1596	270	38	6180
割合	1.3%	0.0%	29.6%	38.3%	25.8%	4.4%	0.6%	100.0%

●実人数 介護3以上 30.1% 介護3以下 69.9%

●延人数 介護3以上 30.8% 介護3以下 69.2%

②基本属性

平均年齢 87.5歳（最高99歳女性、最低66歳女性）

男女比率 男性18.5%：女性81.5%

利用登録者 要介護者 52名 要支援者 2名 合計 54名

新規利用者（16名） 主な利用理由（外出機会の確保・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望・他デイ閉鎖に伴う移行）

廃止利用者（18名） 主な廃止理由（逝去・施設入所・他サービス利用・入院による状態変化）

（2）認知症対応型通所介護

①要介護度別実人数・延べ人数

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	0	0	24	50	92	55	72	293
割合	0.0%	0.0%	8.2%	17.1%	31.3%	18.8%	24.6%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	0	0	147	625	598	511	857	2738
割合	0.0%	0.0%	5.4%	22.8%	21.8%	18.7%	31.3%	100.0%

●実人数 介護3以上 74.7% 介護3以下 25.3%

●延人数 介護3以上 71.8% 介護3以下 28.2%

②基本属性

平均年齢 86.8歳（最高98歳女性、最低75歳女性）

男女比率 男性42%：女性58%

利用登録者 要介護者 26名 要支援者 0名 合計 26名

新規利用者（9名） 主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・入浴希望・その他等）

廃止利用者（10名） 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	令和5年4月1日の職員数			年間退任・就任						令和4年4月1日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名							1名		1名
生活相談員	3名		3名	1名	2名			1名	2名	4名		4名
介護職員		12名	12名			2名	2名	2名	2名		12名	12名
看護職員		4名	4名			1名	1名	1名	1名		4名	4名
栄養士調理員		3名	3名				1名		1名		4名	4名
宅配員		12名	12名			1名	1名	1名	1名		11名	11名
食の自立 Co	1名		1名	1名				1名			1名	1名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		3名	3名								3名	3名
清掃員		2名	2名								2名	2名
合計	5名	37名	42名	2名	2名	4名	5名	6名	7名	5名	38名	43名

※但し、兼務者は主たる業務でカウントしている。

【施設運営状況】

1. 指定管理協定更新の2年目

2022（令和4）年度は小金井市の指定管理協定の第6期（5か年：2021年度～2025年度）の2年目であった。

部門においては第4期高齢福祉部門中期経営計画【2020（令和2）～2022（令和4）年度】を踏まえ、経営の更なる恒常的安定を目指し、サービス・業務の向上に取り組んだ。

2. 財務報告

本年度（2022（R4）年度）決算は、資金収支会計で当期資金収支差額合計は、9,917千円の赤字となっている。

また、事業活動収支会計で当期活動増減差額は、12,826千円の赤字であった。事業活動収支会計における介護保険事業収入は1億4,443万円であった。

利用者・職員の新型コロナウイルスの感染が11月～12月にかけて発生し、事業は休止することなく継続したが、利用者の長期欠席や利用控えが相次ぎ、コロナが治まった後も一旦減少した利用者登録を回復することが出来なかったことにより通所介護の利用率は低迷、また、通所介護利用者のショートステイ利用や施設入所が多くあり、利用人数を確保することに困難があった。

小金井市の委託事業である食の自立支援配食事業においては、1日目標80食に対して平均83.3食と高い数字を残した。

【利用者支援状況】

1. サービス方針に則った取組み

1) 人格を尊重した福祉の実践

(1) 労務環境改善取組み

① 処遇改善計画の立案・実施

- ・ 処遇改善手当対象外職員への賃金改善など

- ・腰痛ベルト支給、国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）

②雇用促進

介護員（2名）、看護師（1名）、宅配員（1名）採用

③身体健康管理対策

- ・安全衛生標語の作成と MTG での唱和
- ・腰痛ベルト支給
- ・職員検診（6月、7月）
- ・体温等体調確認チェック（毎日）の実施
- ・インフルエンザワクチン予防接種（11月）
- ・新型コロナワクチン接種の推奨
- ・新型コロナ抗原検査の定期的検査（週2回）の実施

④メンタルの健康管理対策

- ・コミュニケーション標語の作成と MTG での唱和
- ・コミュニケーション改善のための OJT の習慣化
- ・ストレスチェックの実施（中央労働災害防止協会）

⑤人材確保への取り組み

- ・求人に関する窓口の法人本部への一本化
- ・ハローワーク合同就職説明会の開催
- ・看護師合同就職説明会の開催

⑥記録の見直し

- ・通所介護計画書・個別機能訓練計画書のフォーマット見直し
- ・感染症（コロナ）マニュアルの更新

（2）人材育成取組み

①理念に則った支援の遂行

- ・サービス提供現場での OJT
- ・相談員 MTG、職員会議で支援の振り返りと検討

②介護事故・ヒヤリハットの振り返り

③生活相談員会議、看護師会議、給食会議、職員会議の定期開催

④サービス・業務向上委員会の実施

⑤メンター制による中途採用職員の育成

⑥各種研修への参加（別紙参照）

⑦法人本部によるスタッフシートを活用した人材育成（面談→課題抽出）

（3）ゆしみ、張り合い、心地よさの追求取組み

①ゆしみの追求

- ・給食会議の定例化（毎月第2火曜日）
- ・行事食や食形態の見直し等を検討。
- ・ご利用者の声をもとにしたおやつメニューの見直し（手作りあんみつ等）
- ・生活リハビリを兼ねた調理プログラムの実施（しるこ作り・大根もち作り・水ようかん作り・みかんジャム作り・ところてん作り・梅シロップ作り・赤しそジュース作り）
- ・センターでの藍の栽培～藍染体験
- ・野菜作りを通じた収穫体験、デッサン、試食等(玉ねぎ・きゅうり・ナス・赤しそ)
- ・敬老会での手作りプレゼント作成（オリジナルフォトフレーム）
- ・壁掛け用大型スクリーンの使用

②張り合いの追求

- ・地域交流（地域イベントへの参加）

- ・保育園とのプレゼント交流（小金井保育園、しんあい保育園、しんあいのぞみ保育園）
- ・認知症進行予防の取り組み立案と実施
 - ・脳トレーニング 「脳を鍛える学習療法」
 - ・回想法「よい聴き手であり続けるために」
- ③重度障害・医療ニーズの高い認知症高齢者、看取り支援
 - ・重度介護が必要な方や看取り介護が必要な方の受け入れ。
 - ・経管栄養、痰の吸引、在宅酸素、褥瘡処置
 - ・看取り支援（医療と多職種連携、食事摂取方法の検討、家族支援）
 - ・食形態（特食）食事摂取方法の検討（栄養部と連携）
 - ・在宅医療、介護サービスとの多職種連携（MCS の活用）
 - ・車椅子用テーブルの追加購入
 - ・介護食器等補充（4月）
 - ・迷子ご利用者の見守り、搜索

2) 安全と安心の提供

(1) 食の自立支援事業（配食、活動会食会、いっぷくカフェ、食の自立第三者委員会など）

①配食サービス

- ・配達日：日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く平日
- ・利用日：月水金または火木土の週3回以内
- ・対 象：下記ア、イの要件を満たし且つ包括支援センターの調査訪問結果で市の承認を得た方
 - ア：介護保険サービスを利用している方
 - イ：「ひとりぐらし」もしくは「高齢者世帯」、「その他の世帯」で食材の調達・調理が困難で、定期的な見守り支援が必要な方
- ・利用数：定員は80食/日。実績は平均83食/日。

②いっぷくカフェ

- ・開催頻度：月1回
- ・内 容：閉じこもり防止のきっかけづくりとして外出機会をつくる。昨年より新型コロナの感染対策をおこなって活動を再開しており、今年度も蔓延防止措置期間以外は実施した。
- ・対 象：食の自立支援事業配食サービスご利用者様から選定
- ・実施時間：14時～15時
- ・参加人数：5名～6名

③食の自立第三者委員会

- ・目 的：食の自立支援事業（配食、いっぷくカフェなど）が、事業の目的にあって提供し機能するよう社会福祉法人聖ヨハネ会では第三者委員会を独自で設置した。
- ・メンバー：第三者委員（配食ボランティア、元民生委員、いっぷくカフェボランティア、地域の代表、「みんな愛ネット」メンバー）、オブザーバー（小金井市介護福祉課）、栄養係（課長、食の自立支援事業CO）、センター長
- ・開催頻度：年1回（12月開催）
- ・内 容：食の自立支援事業のコーディネーターが新しく着任となった為、紹介する。実績報告、現在の利用状況の報告を行う。

④食の自立担当者会

- ・日 時：2022年6月（1回実施）
- ・内 容：食の自立コーディネーターが着任したばかりであった為、ご利用者様の近況

報告と併せて顔合わせを行った。

(2) 自衛消防隊活動

①自衛消防訓練の実施

- ・内 容：避難訓練（年 4 回）、通報訓練、web171 訓練（年 2 回）他訓練（年 2 回）
- ・参加者：デイサービス職員、栄養職員

②高齢部門防災員会（毎月第 1 水曜日 14 時半～15 時）

- ・各施設防災訓練報告
- ・BCP に必要な初期対応マニュアル、緊急連絡網、備蓄品などの整備・更新状況の確認

③防火・防災管理者の変更（4 月）

- ・長津宏史へ

④救急医療災害支援情報キット申請窓口の継続

(3) 建物設備

- ・高圧食器洗浄機ガスブースター交換（4 月）
- ・3 階蛍光灯安定期修理（5 月）
- ・3 階トイレ手洗器自動水洗修理（5 月）
- ・厨房ガスバーナー・五徳交換（6 月）
- ・入浴休憩室ベット修理（7 月）
- ・コンビオープン内センサー修理（9 月）
- ・高圧計器用変圧変流器の取替（9 月）
- ・屋上加圧給水ユニットの更新（10 月）
- ・階段用（2 階 3 階）伸縮門扉修理（10 月）
- ・東側屋外増圧直結給水装置更新（12 月）
- ・北側外壁修繕工事（2、3 月）

(4) 感染症予防取組み

①感染症対策委員会、安全衛生委員会の活動

- ・感染症研修の開催（9 月：食中毒予防 自施設研修）
- ・感染症シュミレーション研修開催・参加（2 月：自施設研修）
- ・ノロキット配備（車輛・建物）
- ・次亜塩素消毒薬による建物設備消毒実施
- ・ノロキット用塩素消毒薬の毎日交換実施
- ・メディカルマスクの購入配布（職員ならびに利用者に必要時配布）
- ・インフルエンザ予防接種・検便検査実施
- ・新型コロナ抗原検査の定期的検査（週 2 回）の実施

②感染症予防環境対策

- ・コロナ禍での三密回避を踏まえた活動の工夫（活動場所の分散）
- ・エタノール手指消毒液（濃度 75%以上）の確保
- ・自動手指消毒・検温器の玄関フロア設置
- ・2 階フロアに空気清浄器（エアドック）の設置（霞会館寄付）
- ・加湿器の新規購入
- ・入館カードの記入
- ・送迎検温表の作成実施
- ・新型コロナ感染症予防対応マニュアル（通所介護編）の見直し
- ・害虫防除作業委託（6 月～9 月）
- ・入館ルールの徹底（手指消毒薬の配備と案内掲示）
- ・抗原定性検査キットによる「東京都集中的検査」の実施（通年）
- ・感染疑い、要経過観察者発生時の対応方法見直し、経過観察スペース確保

(5) コロナ感染症発生状況

(一般型) 通所介護事業で11月下旬から12月上旬にかけて新型コロナウイルス感染が発生し、利用者5名、職員3名の罹患が確認される。その間事業は継続して実施し、罹患された方も体調は回復したが、認知症対応型通所介護も含め利用控えが相次ぎ利用率は低迷する。

(6) 事故等発生状況

① 労災事故

・なし

② 介護事故

・なし

③ ヒヤリハット

・36件

④ 車輻事故

・停車中の送迎車両(利用者同乗なし)が後退してきた車輻に追突される事故があり、前方バンパー凹みを相手の負担で修理。(9月)

⑤ 苦情

・なし

3) 地域との共生

(1) 認知症に強い街づくりへの取組み

① みんなの安心ささえ愛ネットワーク

・定例会：毎月第3火曜日 15時～16時

② 認知症を支える介護者の集い

・開催日：毎月第一土曜日 13時30分～15時

・内容：認知症を支える在宅介護の経験を分かち合い、学び、気づきを得て、家族介護や自分自身と地域の今後に活かしていただく。

・対象：当センターにおける家族会は、家族介護者に限定せず、地域で認知症の方の在宅介護の支えとなっている方、支えになりたいと考えている方、認知症サポートに興味関心のある方が自由に参加できるよう門戸を開いている。

※今年度の介護者の集いは、会場確保が出来なかった4月とセンターで新型コロナウイルスが発生した12月は感染拡大防止のため「電話・メール」相談に切り替え実施した。それ以外の月は会場にて実施。

・開催回数： 12回(4月～3月)

・参加人数： 延べ64名

・電話相談件数： 4件

(2) こがねい介護教室(家族介護者教室)

・日時：11月12日(土) 13時30分～15時00分

・テーマ：「補聴器を購入する前に知っておきたいこと」

・講師：飯嶋 裕二氏(NPO法人日本補聴器技能者協会理事、認定補聴器技能者)

・参加者：6名(職員除く)

【施設整備状況】

(1) 概況説明

1998（H10）年10月開設から24年が経過。開設当初の設備備品は部品供給が終了しており修理不能のため入替が必要な状況。2022年度小金井市で①屋上加圧給水委ユニットの更新 ②1階屋外増圧直結給水装置の更新③北側外壁修繕工事を実施していただいた。引き続き危機的状況にある設備は、①1・2階系統冷暖房空調設備（GHP）②エレベーターの2か所である。

当センターは市の指定管理委託施設で、福祉二次避難所でもある。被災時に建物設備の不具合から事故など二次災害が発生すれば市民に大きな不安を与えかねない。そのため、今後も日頃から市と連携しながら建物設備の更新は計画的にすすめてゆく。

(2) 主な購入物品

- 令和4年8月 ノートパソコン2台購入 187,660円

(3) 主な修繕・設備入替

① 本町C対応

- 令和4年4月 高圧食器洗浄機ガスブースター交換 152,350円
- 令和4年5月 3階蛍光灯安定期修理 46,750円
- 令和4年5月 3階トイレ手洗器自動水洗修理 67,000円
- 令和4年6月 厨房ガスバーナー・五徳交換 93,500円
- 令和4年7月 2階トイレ自動水洗修理 44,231円
- 令和4年9月 コンビオープン内センサー修理 38,390円
- 令和4年10月 階段用（2階3階）伸縮門扉修 58,300円

② 小金井市対応

- 令和4年10月 屋上加圧給水ユニット更新
- 令和4年12月 1階屋外増圧直結給水装置更新
- 令和5年3月 北側外壁修繕工事

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2022(R4)年度 利用実績集計表		2022年4月～2023年3月												本町高齢者在宅サービスセンター	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護	通所介護・一般	日数	26	24	26	26	27	26	26	25	24	24	27	307	
	23名/日 介護給付 (23名想定)	定員	598	552	598	598	621	598	598	598	575	552	552	621	7,061
		新規	1	0	3	0	2	2	1	1	1	2	2	2	17
		終結	1	2	1	0	2	1	1	1	5	1	4	1	20
		登録数	56	55	58	57	57	58	58	58	54	55	53	54	-
		実利用者数	56	55	58	56	53	55	53	52	49	49	48	47	-
		延利用者数	549	525	557	541	537	504	518	487	433	459	481	514	6,105
		人数/日当	21.1	21.9	21.4	20.8	19.9	19.4	19.9	18.7	17.3	19.1	20.0	19.0	20
		利用率	91.8%	95.1%	93.1%	90.5%	86.5%	84.3%	86.6%	81.4%	75.3%	83.2%	87.1%	82.8%	86.5%
	予防給付 (2名想定)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		終結	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		登録数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	-
		実利用者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	-
		延利用者数	6	9	8	6	8	7	9	7	6	5	7	4	82
		人数/日当	0.2	0.4	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3
利用率		11.5%	18.8%	15.4%	11.5%	14.8%	13.5%	17.3%	13.5%	12.0%	10.4%	14.6%	8.7%	13.4%	
小計		延利用者数	555	534	565	547	545	511	527	494	439	464	488	518	6,187
利用率	85.4%	89.0%	86.9%	84.2%	80.7%	78.6%	81.1%	76.0%	70.2%	77.3%	81.3%	76.7%	80.6%		
事業	通所介護・認知症	日数	26	24	26	26	27	26	26	25	24	24	27	307	
	12名/日	定員	312	288	312	312	324	312	312	312	300	288	288	324	3,684
		新規	1	0	0	0	2	0	1	1	0	0	3	1	9
		終結	0	2	0	2	1	1	0	2	1	1	0	0	10
		登録数	30	28	28	26	27	26	27	25	24	23	25	26	-
		実利用者数	27	27	27	25	26	24	24	24	22	20	23	24	-
		延利用者数	256	253	247	246	253	247	238	213	166	181	202	236	2,738
		人数/日当	9.8	10.5	9.5	9.5	9.4	9.5	9.2	8.2	6.6	7.5	8.4	8.7	8.9
		利用率	82.1%	87.8%	79.2%	78.8%	78.1%	79.2%	76.3%	68.3%	55.3%	62.8%	70.1%	72.8%	74.2%
	通所介護合計	実利用者数	85	84	87	83	81	81	79	78	73	71	73	73	-
	延利用者数	811	787	812	793	798	758	765	707	605	645	690	754	8,925	
	※通所介護全体利用率	84.3%	88.6%	84.4%	82.4%	79.9%	78.8%	79.5%	73.5%	65.4%	72.6%	77.7%	75.5%	78.6%	
	家族介護者教室	回数								1					1
	利用者数									6					6
	認知症高齢者家族交流	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
利用者数	2	4	5	11	3	3	15	6	2	8	5	4	68		
食の自立支援事業	食の自立支援事業	日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	22	26	293	
	80人/日 ①②③⑤	定員	2000	1840	2080	2000	2080	1920	2000	1920	1920	1840	1760	2080	23,440
		延食数	2102	1954	2174	2072	2117	1961	2153	2048	2000	1888	1809	2207	24,485
		利用率	105.1%	106.2%	104.5%	103.6%	101.8%	102.1%	107.7%	106.7%	104.2%	102.6%	102.8%	106.1%	104.4%
	①配食サービス	登録数	205	202	199	202	203	205	207	203	202	203	206	205	-
		実利用者数	186	183	182	181	176	182	189	185	180	178	180	180	-
		延食数	2098	1949	2169	2067	2109	1951	2145	2033	1990	1879	1804	2203	24,397
		食/日当	83.9	84.7	83.4	82.7	81.1	81.3	85.8	84.7	82.9	81.7	82.0	84.7	83.3
	利用率	104.9%	105.9%	104.3%	103.4%	101.4%	101.6%	107.3%	105.9%	103.6%	102.1%	102.5%	105.9%	104.1%	
	②緊急配食	実利用者数	0	0	0	1	1	2	1	2	1	1	0	0	9
		延食数	0	0	0	2	5	7	5	12	6	6	0	0	43
	③活動食食サービス	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	5	5	3	3	3	3	3	4	3	5	4	45
	④栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤調査・ケアプラン	新規・継続	6	2	5	7	3	11	6	2	4	5	7	2	60	
	延利用者数	3	2	4	3	3	3	1	2	1	2	2	2	28	
独自事業	高齢者見守りサービス	延利用者数	8	6	12	7	8	7	4	7	4	5	9	7	84
	日常生活支援 (各種相談対応等)	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ボランティア活動	実人数	10	15	14	11	0	9	16	7	0	8	17	19	-
延人数	24	33	35	19	0	16	31	8	0	10	33	38	247		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	

2022年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表

日 程	分 類	研 修 内 容	場 所	氏 名
2022/4/18,19	防火防災	防火防災新規講習	立川防災館	長津宏史
2022/4/25～6/11	新任研修(理念)	本町センター新任研修(非常勤)	本町C	真壁真実
2022/5/18	介護技術	ケア勉強会～健康・ストレス管理～(アロマカウンセラー)	本町C	山田知子、他10名
2022/5/18,20,27	認知症	認知症管理者研修	eラーニング等	市村直子
2022/6/22	防災	介助者用避難用具(キャリダン)の使用方法	本町C	3F職員
2022/9/7	感染症	食中毒研修	本町C	笹野洋、他22名
2022/9/21	介護技術	事例勉強会(高野)	本町C	鈴木治実、他11名
2022/9/26	防災	介助者用避難用具(キャリダン)の使用方法	本町C	2F職員
2022/10/1	その他(人材育成)	福祉職場に求められるリーダーシップのあり方	WEB研修	吉田麻里
2022/10/24～ 10/29	認知症	専門職が押さえておくべき認知症ケア実践のポイント	WEB研修	栗山まゆ子、他18名
2022/11/7～12/7	新任研修(理念)	本町センター新任研修(非常勤)	本町C	本柳潤子
2022/11/16	虐待防止	高齢者虐待防止研修	小平市	長津宏史
2023/2/6,17,18	感染症	嘔吐物の処理方法と実技、個人防護具着脱手順	本町C,WEB	西村貴子、他22名
2023/3/18	その他(機能訓練)	機能訓練計画書の作成から訓練の展開と評価	WEB研修	市村直子
2023/2/28	権利擁護	虐待の芽チェックリスト	本町C	全職員

3. 医療部門

I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

I 事業概況

2022年度は運営方針として掲げた、1. 経営状況を意識しつつ効率的に医療を展開していく、2. 住民の求めに的確に応える質の高い安全で患者満足度の高い医療を実践する、3. 地域の医療機関等との連携の拡充を図る、4. 職員満足度の高い職場環境整備に努める、という4つの方針に沿って運営してきた。効率経営については、先を見通せないコロナの影響や十分な診療体制を敷くことができず、また抜本的な経営改善を進めることができず目に見える成果を得ることができなかった。

そんな中で患者さんにも感染対策等の要請をし続けるという制約のある療養環境であったが、患者さんに満足していただける医療は展開できたのではないかと考えている。

診療体制は、年度を通じて職種を問わず採用が困難な状況が続き、満足な診療体制を構築することができなかった。体制作りが十分にできないことに加え、年度を通してコロナの大波が続いたことによる患者離れ、今年度初めて入院患者さんに複数回コロナ感染患者が出てしまい、このために新規入院患者をストップせざるを得ないこととなり、患者数が増えず減収となった。この間も可能な限りの支出抑制に努めたが大きな赤字を計上してしまった。

1 2022年度の運営状況

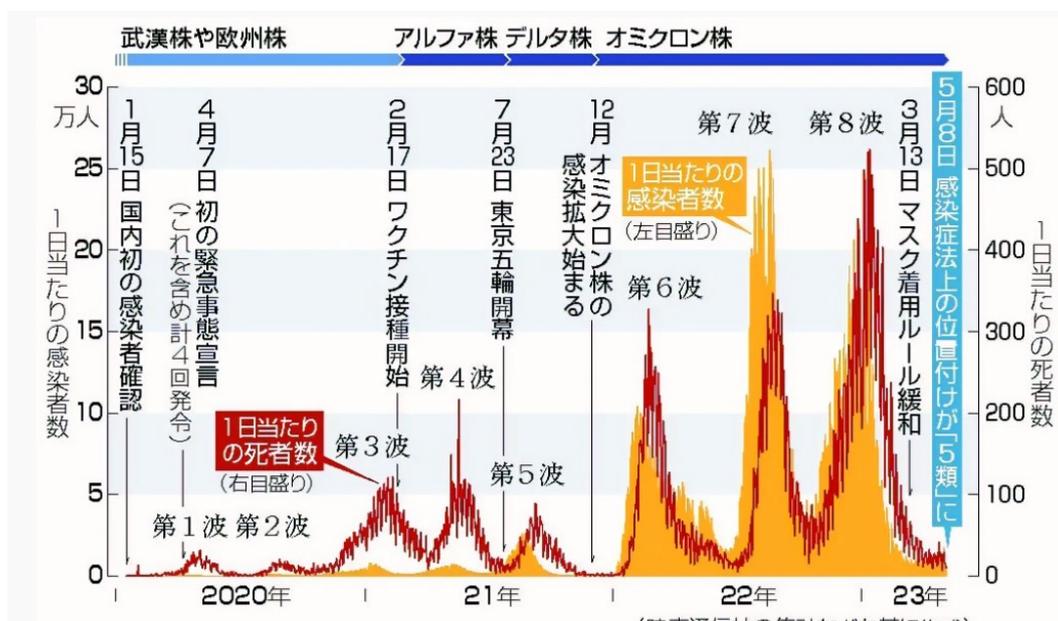
(1) コロナ対応とコロナの経営への影響

2022年度は、コロナは3年目となったが治まるところか感染力の強いオミクロン株が主流となり、これまで最大の第7波や第8波という大きなうねりに翻弄された年度となった。

波ごと感染状況数等(第6波～第8波)

R5.2.28現在

波	感染状況等							人口10万人当たり		
	感染者数	うち入院者数	入院率	うち死亡者数	致死率	感染者数(最大/日)	最大年月日	感染者数	入院者数	死亡者数
5	3,063	1,193	38.9%	8	0.26%	103	21/8/20	387	151	1.0
6	29,106	2,109	7.2%	39	0.13%	439	22/1/27	3,679	267	4.9
7	63,462	1,223	1.9%	97	0.15%	1,662	22/8/18	8,022	155	12.3
8	90,638	1,765	1.9%	227	0.25%	2,201	23/1/6	11,467	229	28.7
総計	188,370	7,768	4.1%	392	0.21%			23,820	988	49.5



2022年度には職員にもコロナ感染が多発するとともに、初めて入院患者さんに感染者が出てしまった。更に2023年に入ってから第8波のピークを過ぎたところに療養病棟においてクラスターが発生してしまった。

この間、ワクチン接種は回数を重ね、オミクロン株は感染力は強いが感染しても軽症だという情報が広まったことやコロナ慣れが見られるようになったとはいえ、感染リスクを恐れることなく安心して受診していただけるように、可能な限りの感染対策を講じ、密を避けるための人数制限や工夫、面会の禁止、分娩時の立会い制限等病院を利用される方には利用しにくい方策を継続せざるを得ない状況が続いた。

2022年度も発熱患者さんが受診する内科や小児科の患者さんの受診抑制に止まらず、ドック・検診の人数制限や妊婦さんの総合的病院離れ、コロナ陽性患者が出たことによる新入院のストップやそれに伴う手術適応患者のお断り等により患者数の減、収入の減という想定を上回る影響が出た。

(2) 経営状況と経営改善

2022年度はワクチン接種が進んだこともありコロナの影響は減るのではないかと期待を持っていたが、第7波から第8波へとコロナの新株オミクロン株が爆発的に流行し、医療提供に支障が出る状況が続いた。

このような状況にあり、年度当初こそ入院患者が多かったものの、年度を通じてこれまでに少なく少ない患者数で推移することとなった。コロナ3年間で最低の入院患者数となり計画した患者数を大きく下回る結果となった。診療単価は手術件数の増加やコロナ患者の診療に係る加算もあり過去最高となったが、患者数の減少を十分にカバーすることはできなかった。一方、外来は年度前半は発熱外来を受診する患者さんが多かったために診療単価を押し上げたことにより、全体の患者数は増えていなかったものの、計画を上回る月も見られた。しかしながら外来も発熱患者の減少に伴い診療単価が低減したことにより計画した患者数の減少をカバーすることができず、年度収入は計画収入を達成することはできなかった。

2022年度における経営改善としては、2021年度にコンサルタントの支援により得たデータに基づく効率的なベッドコントロールを継続するとともに、先に策定した経営改善計画をできるところから進めた。病床や診療科の在り方、南2階病棟の病床運用方策構築への取り組みは、具体策を出すところまでは進んでいるが、最終的な決断をするまでには至らなかった。当該事項は、経営改善の大きなポイントとなる事項であるので結論を得ることができなかつたことは反省しなければならない。支出面では、引き続き抑制的に行うこととし、そのうち人件費が6割を超え、委託費のうちの人件費相当を加えると人件費は7割となることから、人件費に係る改善は効果が出るものと考えている。2022年度には一部の非常勤医師の整理や非常勤医師の賃金単価の見直しを行った。賞与の支給については、職員から不満の声が出されたが大幅な減額支給とした。また、計画した機器の購入や施設設備の改修等も先延ばしにした。更に、諸物価高騰の折、特に電力については異常に高騰していることから節電の徹底を促し続けた。

経営改善計画のうち未実施の項目には、経営改善に大きな効果をもたらすと考えているた易く実行できない難しい事項があるが、2023年度には決断して実行し経営改善につなげていく。

(3) 人員確保と育成

スタッフの採用環境は極めて厳しい。医師始め薬剤師、看護師、看護助手、作業療法士、調理師など、募集のための新たなサイトの活用も始めたが、十分な採用補充ができない状況が続いた。内科医師は採用ができず、看護師は少ない応募を大事にしている。しかし十分な補充ができる状況にない。看護助手や調理師の応募がほとんどない状況が続いている。年度末になってようやく薬剤師の採用ができ何とか新年度に向けた体制を整備することができた。

このような採用環境にあるため安全な医療を提供していくためには、従来以上に在職している人材を適切で確実な知識と技量を持った職員に育てることが重要であることから、コロナ禍にあり院内や外部の集合研修は開催・参加機会は少ないが、Zoomによるものや少人数の研修等を受講することを可能とするために、各部署に研修予算を配布して活用を促してきた。

(4) 診療体制

医師の体制は、チーム医療を展開していく中で、期待される医療を展開する上で重要である。医師の体制は、内科等十分に体制が整っているとは言えない診療科はあるものの、診療科や診療領域によっては医師の数が多すぎると思われる体制となっていると認識している。

2022年度に医師の体制に大きな変更はない。内科の医師は退職後1年以上経過しているが、補充ができない状況にあり十分な体制を作ることができていない。年度末近くによりやく健診担当医師の採用の目途がついたが、内科医師の補充は出来ずに年度を超すこととなった。内科医師の採用補充に向け引き続き努めていく。

医師以外の職種についても採用が難しい状況にあり、体制整備に苦慮している。

(5) 地域医療連携

2022 年度も小金井市医師会、国分寺市医師会の先生方との意見交換会を持つ予定であったが、コロナの拡散が続いたために顔の見える関係作りを進めることができなかった。一方、患者さんの紹介、逆紹介（照会、逆紹介件数ともに微増）や病院機能・空床ベッド等の近隣医療機関への連絡という実質的な連携は着実に進めることができた。次年度に向け近隣の先生方との連携、情報交換役として渉外専任者の配置を予定している。

当地域においても地域包括ケアシステム作りが勧められているが、その医療における中核を担う地域包括ケア病棟・病床は、当院の特徴として外部からの入院（いわゆるサブアキュート患者）が多くを占めていることに変わりはない。そのうち地域包括ケア病棟では、高次機能病院や近隣の先生方からの紹介入院等が4割以上となっている。

また、当院の在宅診療は、がん患者に特化した在宅診療という特色があり、武蔵野日赤等との連携により確実な実績を残した。残念ながら、担当の先生が1月に退職したため今後の在宅診療については、一般の患者さんの在宅診療の体制を整えていくこととした。

(6) 無料低額診療

社会福祉法人立の病院は、無料低額診療事業で設定されている基準を満たせば固定資産税等が免除されるという恩恵を受けることができるが、当地域は制度の対象者の大半を占める生活保護患者が少ない上に、2017 年度から生保以外の対象者が狭められており、当院は基準をクリアすることができずにいる。2022 年度も対象者確保の努力をしてきた。若干数値は上がりましたが6.84%と10%の基準を達成することができていない。

(7) 認知症疾患医療センター

認知症疾患センターは指定を受けて6年目、小金井地区においてこの分野の中心的な役割を担っている。鑑定診断実績は172件と昨年度の166件を少し増加している。相談業務（総件数6,677件、前年度比▲247件）は横ばい実績と言える。一方、コロナ禍にあり地域の認知症に関するサポート体制の拡充などに寄与する取り組みとしての認知症サポーター研修、認知症認定看護師との連携による認知症講座、スタッフ養成講座への講師派遣、地域連携会議開催などについてはコロナ禍の影響により実績は少ない。

(8) 産後ケア事業、病児・病後児保育室

産後ケア事業は小金井市民はもとより、2022 年度からは武蔵野市民の利用も本格化し、また10月からは西東京市も利用をすることとなった。このため利用者が増え2022 年度は延べ226人と2021年の延べ109人を上回る方に利用していただいた。南2階病棟の有効活用のためにも役立っている。

病児・病後児保育は2022 年度末までの登録者数は、昨年度末の227人から280人と増えているが、コロナ感染症が拡大する中で、昨年度の9人より利用は増えているものの、利用者は43人に止まっている。

(9) 病院機能評価受審

2022 度には当院で4度目となる病院機能評価の受審をした。当院はこれまでの受審の機会等の取り組みにより、医療提供や病院管理などの体制を整備してきたが、医療提供プロセスについての評価も含め、コロナ禍における受審という特別な環境における受審とはいえ、高い評価を得ることができた。認定期間5年間。

II 数値計画の達成状況

1 収入

2022年度の収入計画もコロナが終息する見通しを持ってない中で計画した。コロナは3年目となったが新たにオミクロン株が出現した。この株は感染力が強くこれまで以上に感染者が多くなった。2021年度の第6波が治まり切らないままに第7波というこれまで経験した波を大きく上回ることとなり、そして第8波へと、年度を通して多くの感染者数が報道された年度であった。ワクチン接種が進み、抗体保有率が上がったとはいえ、当院の入院患者はコロナ初年度の2020年度をも下回ることとなった。外来患者は若干の増加を見たが、やはりコロナの影響により抑制的な受診という結果となった。

この結果、収入は当初計画に対して入院で▲66百万円、外来で▲11百万円となった。入院外来合わせて昨年度比で、内科が▲13百万円、小児科が▲8.9百万円、産婦人科が▲7百万円、ホスピス科が▲15.87百万円の減収となった。かろうじて外科が+5百万円、整形外科が1百万円のプラスとなった。

<事業活動収入（資金収支計算書）>

事業活動収入計画額3,188百万円に対し実績は3,194百万円と+6百万円となっている。入院収入が計画に対し+14百万円、外来収入が計画に対し▲24百万円、ドック・健診収入が計画に対し▲6百万円という状況である。

(1) 患者数

入院 予算作成時にはコロナの感染状況や収束時期について不明であったが、コロナが終息しないことも考慮して年度計画は151人/日とした。しかしながら、2022年度は年度を通して感染者が発生し続けたこともあり、年度を通してこれまでになく患者数の低迷状況が続いた。

この結果、全科では計画比▲14.8人/日、昨年度比▲5.2人/日、診療科別に見ると内科が計画比▲2.1人/日、昨年度比▲2.2人/日、整形外科が同▲1.9人/日、同▲3.2人/日、産婦人科が同▲1.9人/日、同▲0.7人/日、と大きな診療科で患者数の減少が目立った。

単位：人/日

項目	2022年度		2021年度	2020年度	2018年度
	実績	計画	実績	実績	実績
入院	136.2	151	145.4	141.4	154.7
内科	36.9	40	38.2	35.2	41.4
整形外科	32.1	35	36.3	35.3	32.1
産婦人科	10.1	12	10.8	12.5	19.1

外来 外来はコロナまん延に合わせ発熱患者が多い期間があったが、コロナ以外の患者数の伸びが見られなかった。

外来患者数は計画に対し▲32.8人/日、昨年度比+8.3人/日となった。前半290.4人/日、後半308.2人/日。内科は計画比▲16.1人/日、昨年度比+2.1人/日となったが、小児科は計画比▲7.4人/日、昨年度比+1.0人/日と若干の戻りはあるものの、依然受診抑制が著しい。

単位：人/日

項目	2022 年度		2021 年度	2020 年度	2018 年度
	実績	計画	実績	実績	実績
外来	299.2	332	290.9	275.1	388.7
内科	113.9	130	111.8	100.9	139.2
小児科	27.6	35	26.6	27.9	60.6
産婦人科	32.8	35	29.8	32.9	47.6

(2) 診療単価

入院 診療単価 40,317 円は計画を 1,824 円、昨年度を 1,842 円それぞれ上回った。内科は 32,982 円と計画を 1,793 円、昨年度を 1,568 円、整形外科は 50,717 円と同じく 3,764、4,101 円、産婦人科は同じく 7,062 円、4,192 円、眼科は 97,459 円と同じく 8,870 円、9,052 円それぞれ上回った。いずれの診療科も大幅なアップとなっている。手術件数の増加やコロナ加算が単価アップの大きな要因である。

単位：円

項目	2022 年度		2021 年度	2020 年度	2018 年度
	実績	計画	実績	実績	実績
入院	40317	38493	38475	39016	38234
内科	32982	31189	31414	30093	28929
整形外科	50380	48405	46616	47369	45680
産婦人科	91867	84895	87675	88591	76002
眼科	97759	88889	88707	101859	96351

外来 7,998 円と計画比+659 円、昨年度比▲407 円となった。昨年度より下がった要因は発熱外来加算の減が大きく影響している。内科や小児科等の単価が下がっていることにそのことを伺い知ることができる。

単位：円

項目	2022 年度		2021 年度	2020 年度	2018 年度
	実績	計画	実績	実績	実績
外来	7998	7284	8405	7457	6539
内科	8882	7504	9272	8149	7385
小児科	8184	5178	9495	4858	4804
整形外科	8472	8836	8716	8809	7713
産婦人科	6778	7533	7462	6838	6635

(3) 手術件数

計画手術件数は、月 80 件以上の目標に対し実績は 78.7 件となっており、計画比▲1.3 件、昨年度比では+6.7 件。眼科は毎週手術を行うこととしたこともあり昨年度比+4.0 件と増加している。整形外科は昨年度並み。産婦人科 34.1 件/月はこのところ減少し

ていたが、昨年度比+2.1件と増加に転じた。しかし好調の時期の40件/月にはまだまだの状況にある。

単位：件

項目	2022年度	2021年度	2020年度	2018年度
全体	944	864	856	997
産婦人科	409	384	422	572
整形外科	275	259	229	244
眼科	238	177	165	155
外科	22	28	10	26

(4) 分娩件数

分娩は241件、月20.1件となっており、昨年度に比べ月0.7件減少となった。

このところ毎年50～60件減少していたが、前年度を上回ることはなかったが前年度比8件の減にとどまった。全国の出生数は2022年80万人を下回るという驚く状況にあるが、面会や立ち合い分娩の制限を緩和する中で、無痛分娩の広報や周産期医療の充実などにより1人でも多くの妊婦さんに当院を利用していただくよう努めていく。

単位：件

項目	2022年度	2021年度	2020年度	2018年度	2014年度
分娩	241	249	306	415	483

(5) ドック・健診事業

2022年度の外来ドックは555件（月平均46.3件）となり、前年度比+38件と若干の増加となった。また小金井市民検診は1,437件と昨年度比▲199件と減少した。人間ドックはコロナが拡散したために1日5人枠を3人に制限せざるを得なかったことが影響したと思われる。検診は2022年度末にようやく担当医師を採用することができたので、予約枠を拡げることにより実績を伸ばすことを目指している。

単位：人

項目	2022年度	2021年度	2020年度	2018年度
外来ドック	555	517	396	679
小金井検診	1437	1636	1106	2179

2 支出

支出に占める、いわゆる人件費は7割近くになる。残りの3割をいかに効率的に削減、節減するかであるが、収入見合いの支出の方針の下に、機器等の整備や大規模修繕などの投資的経費を抑えてきた。また、職員の理解・協力を得て賞与を大きく減額している。更に折りしも諸物価高騰の折、とりわけ電力料金の値上げが大きいので可能な限り節電を促すとともに、業務整理等により超過勤務の減少について促し続けた。

<事業活動支出（資金収支計算書）>

事業活動支出計画額3,142百万円に対し、実績は3,107百万円と34百万円の減となった。計画内での支出となった主な要因は賞与支給額を抑えたことや計画した機器等の整備を見送ったことが大きい。

3 収支状況

前年度の第6波が終息しないままコロナ感染が拡大し、第7波というこれまで最大の波となったことや第7波も終息することなく第8波が続いたことにより、患者減から収入が増えず、収支状況は赤字となってしまった。

<事業活動資金収支差額（資金収支計算書）>

事業活動資金収支差額は計画4.7百万円に対し▲40百万円と計画減となっている。

III 機器整備、施設設備改修

1 機器の整備

機器等の整備については、2022年度は、経腹・経膈エコー、特浴装置一式、内診台始め機器等整備費として2.1千万円を、また、リースによる購入としてハイスピードドリル、複合機などを年額0.76千万円、合計2.86千万円を計画したが、入院収入や健診収入などが大きな収入減となっていることから、計画のうち経腹・経膈エコー740万円）、特浴装置一式（823万円）、内診台（215万円）等の整備に止めた。

2 施設・設備の改修等

施設・設備の改修等においても、ホスピス病棟北棟大部屋エアコンの更新（517万円）、外壁診断（218万円）、樹木剪定管理（186万円）等に止めた。

IV さくらまち保育所

さくらまち保育所は、常勤保育士2名、その他の勤務契約の保育士3.1名（常勤換算）の体制で1日平均保育児数1.25人の保育を行った。保育所を利用した児童実数は17人で、平日保育の他、24時間保育44回、休日保育9回を行った。

V 病児・病後児保育室（さくらんぼ保育室）

さくらんぼ保育室は、開設から4年目である。コロナの感染拡大により利用控えがあり、利用実績は少ない。担当職員としては、さくらまち保育所との兼務の保育士、外来看護師、小児科医師が携わっている。利用実績は延べ43人である。

VI 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤職員5名（保育士4名、児童指導員1名）で、コロナ対策を行いつつ、安全確保を重視した運営をした。従来補助要員として採用していたアルバイト学生は感染防止の観点から採用しなかった。短期入所人数321人、利用件数359件、利用日数679日及び日中一時支援人数77人、利用件数97件の支援を行った。

2015年度より小金井特別支援学校の学区域の市にあたる小金井市、武蔵野市、小平市に加えて西東京市による4市連携での支援は今年度も継続され、安全な通学支援をはじめとした体制作りについて保護者を含めた関係者で話し合いを行った。

【活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (2021年度)	利用率 (2020年度)	利用率 (2019年度)
入院	199床	136.2人	49,731人	68.4%	73.1%	71.1%
外来	—	299.2人	87,951人	—	—	—

平均在院日数	22.2日 一般のみ 16.1日 ホスピス 37.0日 療養 169.9日
新入院患者数	2,236人 (前年度 2,062人)
退院患者数	2,236人 (前年度 2,074人)
時間外患者数	395人 (前年度 278人)
紹介率・逆紹介率	紹介 14.4% (前年度 15.8%) 逆紹介 17.1% (前年度 17.6%)
手術件数	944件 (前年度 864件)
全麻件数	587件 (前年度 559件)
分娩件数	241件 (前年度 249件)
人間ドック件数	入院 0件 (前年度 0件) 外来 555件 (前年度 517件)

【無料低額診療】 上段：2022年度 下段：2021年度

1. 受診人数

新規実人数	継続実人数	実人数計	延べ受診人数
20	17	37	107
16	11	27	137

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	脳外科
56	19	4	10	16	13	9	1
55	20	2	4	11	7	38	0

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉協議会・福祉公社	難民支援	ホームレス支援団体	他病院	その他	合計
25	30	45	0	0	7	107
14	26	12	0	0	85	137

【職 員】 2022 年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	2022 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						2023 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤職員	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院 長	1									1		
副院長	1									1		
医 師	23	36	2	5	5	6	4			21	38	2
助産師	9	8		1	1	6	1			8	13	
看護師	73	46	3	11	15	8	8	2	1	70	48	5
准看護師	2	2					1			2	2	
看護助手	5	3	3	1		3	2			5	4	3
薬剤師	6	1		1	1		1	1	1	6		
放射線技師	7			1	1					7		
臨床検査技師	7	2								7	2	2
PT・OT・ST	12	2		1	1	1				13	2	
栄養士	7				1					6		
MSW	5									5		
事務部	18	9		2		4	4			19	12	
施 設	2		1							2		1
その他	23	32	1	1	2	19	6			19	34	1
合 計	201	141	12	24	27	48	27	3	2	192	155	14

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士
・保育士等）

【患者動向】

診療科別患者状況

区 分	入 院		外 来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)
内科	36.9	32,982	113.9	8,882
	38.2	31,414	111.8	9,272
精神神経科	—	—	29.0	6,096
			30.5	6,061
小児科	1.0	33,693	27.6	8,184
	1.6	33,976	26.6	9,495
外科	6.7	33,002	18.6	5,694
	7.6	33,236	18.2	5,846
整形外科	33.1	50,717	47.9	8,472
	35.3	46,616	45.2	9,495
産婦人科	10.1	91,867	32.8	6,778
	12.5	87,675	29.8	7,462
眼科	1.2	97,459	26.8	6,092
	1.0	88,707	24.6	5,984
ホスピス科	13.8	46,044	1.7	4,464
	13.7	46,804	4.1	24,524
ホスピス内科	0.5	29,881	—	—
	1.1	34,718		
療養	33.0	19,835	—	—
	34.4	18,263		
訪問診療	—	—	1.8	
計	136.2	40,317	299.2	7,998
	141.4	38,475	290.9	8,405

注：上段 2022年度 下段 2021年度

訪問診療は2022年度実績

【機器等整備状況】

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・修繕	整備部署
超音波診断装置	1	更新	産婦人科
内診台	1	更新	南2階病棟
手すり付き身長・体重測定器	1	更新	北4階病棟
医用テレメータ	1	増設	療養病棟
特浴装置一式	1	更新	療養病棟
高圧食器洗浄機 2021年度計画分納期遅れ	1	更新	栄養科
自動錠剤分包機 2021年度計画分納期遅れ	1	更新	薬剤科
全身麻酔器 2021年度計画分納期遅れ	1	更新	麻酔科
オフサルミックヤグレーザー 2021年度 計画分納期遅れ	1	新設	眼科

【施設・設備整備状況】

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
ホスピス病棟エアコン更新工事
本館外壁診断
樹木剪定管理

【教育研修実施状況】

研修名（研修タイトル）	年月日	開催場所	出席者数
個人情報保護研修	2022. 5. 25	・第一会議室 ・図書室 Zoom 配信	35名
インシデントレポート報告まとめ	2022. 7. 11～ 8. 15	e-ラーニング	324名
「頑張ろう！手指衛生1 2022」	2022. 9. 7～9/28	e-ラーニング	301名
転倒・転落予防を考える	2022. 11. 18・11. 21 両日とも3回ずつ 計6回配信	・会議室 ・院内各部署にて Zoom： 同時配信にて聴講	238名
薬物耐性 「抗菌薬のおはなし」	2023. 3. 13～3. 30	e-ラーニング	298名

注：その他計画していた集合研修は、コロナ感染防止の観点から開催していない。

<さくらまち保育所>

項 目	実 績
保育児数	保育児延べ数 735 人（前年度 1,527 人）
	平日 722 人、休日 44 人（前年度平日 1,486 人、休日 41 人）
24 時間保育	延べ回数 44 回（前年度 46 回）
	延べ保育児数 57 人（前年度 64 人）
職員数	延べ数 1,253 人（前年度 1,624 人）
行事等	定期健康診断 5 月、11 月

<病児病後児（さくらんぼ保育室）（2019.11.21 開設）>

項 目	実 績
保育児数	保育児延べ数 43 人（前年度 8 人） 児童数 20 人
職員数	延べ数 44 人（前年度 11 人）

<桜町児童ショートステイ>

項 目	実 績
短期入所 利用実人数	321 人（前年度 287 人）
利用件数	359 件（前年度 294 件）
利用日数	679 日（前年度 571 日）
日中一時支援利用実人数	77 人（前年度 70 人）
利用件数	97 件（前年度 89 件）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市

4. 公益事業部門

I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【施設運営状況】

1995 年度より小金井市の訪問看護事業第一号として地域のニーズに対応してきたが、コロナ禍となってからは、年々訪問依頼数は低くこれまで桜町病院より受けていた依頼は減少の一途で昨年度は年間 5 件（前年 11 件）と非常に少なかった。この 1 年内科カンファレンスに参加させていただき、入院患者の入院時の状況をきいているが、その後訪問看護に繋がるケースはなかった。退院時から継続して支援する対象者がいないというのは併設の役割を果たせていないかと考えている。依頼の少ない理由として在宅に直接戻る方が少ない、患者宅が当ステーションの訪問できる範囲内ではない、頻回な訪問が必要で当ステーションではマンパワーが不足なので他のステーションへ依頼となるなどが考えられる。ご高齢の利用者が主なので、毎月訪問終了となる方はあり（昨年度 20 名）依頼数を上回っている。

2019 年より 24 時間対応を開始し常勤者 4 名で携帯電話担当を行っていたが、利用者獲得ができず常勤者の定年退職を機に 3 名で当番体制をとっている。契約者は徐々に減らし現在 10 名弱と少ないが、体調によっては休日の対応も求められ、5 月は 4 回休日に臨時出勤を行っている。24 時間対応の義務として、第一コール、第二コールを利用者に伝えることが必要であり第二コールは管理者が担当している。慣れない職員がいるため第一コールで対応できず、管理者が対応する場面も多々あり常に拘束されている状態にある。もしも 24 時間対応を辞めることとすると現在月 150 万円程度の収入から -45 万円の減収。24 時間でフォローする体制がないと更に利用者の獲得は困難となるかと考えられる。

感染症対策や災害対策の観点から小規模のステーションでは担えない状況となっている。現在の職員数では災害が起こった際利用者の利益になる活動は難しい。安定した事業運営、職員の定着の観点からも大規模化推進に向かう方向に世の中は進んでおり全国訪問看護事業協会が提示した内容では常勤職員 7 名以上在籍が目指すところである。ここ数年市内のステーションは急増（市内 16 か所）しており、民間のチェーン展開した事業所の開設が多く、24 時間いつでも対応を行う体制をとっている。

これまで病院の包括ケア病棟の基準を達成するためにステーションの存在が必要とのことであったが、先日敷地内にヘルパーステーションがあるなら基準は満たすことがわかった。

人員に関する基準として常勤換算 2.5 人以上であり管理者は 0.5 人と換算され、その他常勤者 1 名が必要である。現在常勤換算 3 人であるが、ひとりでも欠員がでると休止となるギリギリのラインである。先日常勤者のコロナ感染があり、非常勤者に急遽出勤してもらうなど日々の訪問はなんとか対応できた。しかし 24 時間対応の方へ休日の対応ができない時間帯があり、利用者の方にご心配をおかけした。他の職員の負担も大きく、再度このような事態になると対応が困難である。設備に関する基準として、運営に必要な広さを有する専用の事務室・相談スペースを設ける必要がある。現在の別館も老朽化しており地震など災害に耐えられるのかなど心配な面がある。

以上のことより、2022 年 12 月をもって事業廃止とすることとした。

Ⅱ 聖ヨハネホスピスケア研究所

【活動状況報告】

年度初めから、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ボランティア活動も自粛することを決め、音楽療法についても緊急事態宣言の発出を受けて、活動を自粛することとした。

ホスピスセミナー、講演会、ボランティア講座、研修会などの活動もすべて中止することとなった。

2022年度については、このような状況を踏まえて、1年間の活動休止を理事会で決定した。

なお、今後の事業の在り方について、検討を進めている。

5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら (高齢者賃貸住宅)

【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え本事業をスタートし7年目を迎えた。地域包括ケアシステムを構築する過程で老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針で進めることとなった。

これまでの経験から、利用者の前住居の整理、荷物の取捨選択といったところに時間をかなり要することがわかってきた。また入居後に身体の衰えなどで特養への入所に移ってしまうケースも予想していた以上に多いということがわかった。今後は積極的な入居は行わないこととしたい。

【2022年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	2022年度利用率
シニアハイムさくら	5室	1名	20.0%

【施設整備状況】

特になし

三 理事会

第 343 回 2022 年 4 月 27 日（水）zoom によるリモート開催

(1) 決議事項

第 1 号議案 インボイス制度の件

第 2 号議案 諸規程の制定及び改訂の承認の件

(1) 高齢福祉部門職員給与規程

(2) 報告事項

報告事項 1 東京都による実地検査経過報告の件

報告事項 2 寄付金の募集に関する経過報告の件

第 344 回 2022 年 6 月 6 日（月）zoom によるリモート開催

(1) 決議事項

第 1 号議案 2021 年度監事監査報告の承認の件

第 2 号議案 2021 年度事業報告及び計算書類等の承認の件

第 3 号議案 社会福祉充実残額の承認の件

第 4 号議案 定時評議員会の招集事項決定の件

第 5 号議案 諸規程の制定及び改訂の承認の件

(ア) 障害福祉部門正規職員給与規程

(イ) 小金井聖ヨハネ支援センター運営規程

(ウ) 小金井聖ヨハネワークセンター運営規程

第 6 号議案 役員等賠償責任保険の契約承認の件

(2) 報告事項

報告事項 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について（下半期実績報告）

報告事項 2 一時会計監査人の選任の件

第 345 回 2022 年 7 月 27 日（水）zoom によるリモート開催

(1) 決議事項

第 1 号議案 本町高齢者在宅サービスセンターの将来の在り方の件

第 2 号議案 法人の継続性に関する件

第 3 号議案 訪問看護事業の継続に関する件

第 4 号議案 諸規程の制定及び改訂の件

(1)ふらっとヨハネ運営規程

(2) 報告事項

報告事項 1 第 108 回定時評議員会報告の件

第 346 回 2022 年 8 月 24 日（水）zoom によるリモート開催

(1) 決議事項

第 1 号議案 法人の継続性に関する件

第 2 号議案 評議員会の招集事項決定の件

第3号議案 訪問看護事業の廃止に関する件

第4号議案 桜町聖ヨハネホーム陰圧ブース設置（補助事業）の件

第347回 2022年9月29日（水）zoomによるリモート開催

（1）決議事項

第1号議案 桜町聖ヨハネホーム陰圧ブース設置に関する入札の件

第2号議案 法人の継続性に関する件

第3号議案 諸規程の制定及び改訂の承認の件

（1）障害福祉部門運営規程

（2）障害福祉部門育児・介護休暇等に関する規程

（3）障害福祉部門組織図

第4号議案 新たな臨床試験事業提案の件（病院事業）

（2）報告事項

報告事項1 本町高齢者在宅サービスセンターの今後のサービス提供のあり方に関する回答の件

第348回 2022年10月26日（水）zoomによるリモート開催

（1）決議事項

第1号議案 法人の継続性に関する件

第2号議案 諸規程の制定及び改訂の件

（1）高齢福祉部門職員給与規程

第349回 2022年11月24日（木）zoomによるリモート開催

（1）決議事項

第1号議案 2022年度第一次補正予算の承認の件

第2号議案 会計監査人の選任の件

第3号議案 評議員会の招集事項決定の件

第4号議案 諸規程の制定及び改定の承認の件

（1）高齢福祉部門職員給与規程

（2）報告事項

報告事項1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件（上半期実績報告）

第350回 2022年12月28日（木）zoomによるリモート開催

（1）決議事項

第1号議案 聖ヨハネホスピスケア研究所事業の今後の件

第2号議案 法人の継続性に関する件

第3号議案 施設長等の人事の件

第4号議案 基本財産処分申請の承認の件

第5号議案 基本財産抵当権解除申請の承認の件

第6号議案 評議員会の招集事項決定の件

第 351 回 2023 年 1 月 24 日（火）zoom によるリモート開催

（1）決議事項

第 1 号議案 明見聖ヨハネケアービレッジの廃止の件

第 2 号議案 法人の継続性に関する件

第 352 回 2023 年 2 月 22 日（水）zoom によるリモート開催

（1）決議事項

第 1 号議案 中期経営計画（2023 年度－2025 年度）の策定の件

第 2 号議案 2022 年度第二次補正予算の承認の件

第 3 号議案 税務調査による指摘事項の件

第 4 号議案 諸規程の制定及び改定の承認の件

（1）障害福祉部門正規職員就業規則

（2）障害福祉部門育児・介護休業等に関する規程

第 353 回 2023 年 3 月 16 日（木）zoom によるリモート開催

（1）決議事項

第 1 号議案 2023 年度事業計画及び予算の承認の件

第 2 号議案 評議員会の招集事項決定の件

四 評議員会

第108回 2022年6月22日(水) zoomによるリモート開催

(1) 報告事項

報告事項1 2021年度監事監査報告の件

報告事項2 2021年度事業報告の件

報告事項3 一時会計監査人の選任の件

(2) 決議事項

第1号議案 2021年度計算書類等の承認の件

第2号議案 社会福祉充実残額の承認の件

第109回 2022年9月8日(木) zoomによるリモート開催

(1) 決議事項

第1号議案 訪問看護事業の廃止承認の件

第110回 2022年12月7日(水) zoomによるリモート開催

(1) 決議事項

第1号議案 2022年度第一次補正予算の承認の件

第2号議案 会計監査人の選任の件

第111回 2023年1月11日(水) zoomによるリモート開催

(1) 決議事項

第1号議案 基本財産処分申請の承認の件

第2号議案 基本財産抵当権解除申請の承認の件

第112回 2022年3月29日(水) zoomによるリモート開催

(1) 決議事項

第1号議案 中期経営計画(2023年度-2025年度)の承認の件

第2号議案 2023年度事業計画及び予算の承認の件

五 経営会議

2022年4月27日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1) 月次報告（2022年2月）について
- (2) 理事会・評議員会報告

【議案】

- (1) インボイス制度について
- (2) 法人紹介ビデオ作製について

2022年5月25日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1) 月次報告（2022年3月）について
- (2) 理事会・評議員会報告

【議案】

- (1) 桜町聖ヨハネ祭について
- (2) 2021年度会計監査について

2022年6月29日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1) 月次報告（2022年4月）について
- (2) 理事会・評議員会報告

【議案】

- (1) 2022年度桜町聖ヨハネ祭について
- (2) 2021年度決算について
- (3) 理事長実印について
- (4) 四半期実績報告について

2022年7月27日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1) 月次報告（2022年5月）について
- (2) 理事会・評議員会報告

【議案】

- (1) 四半期実績速報について

2022年8月31日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1) 月次報告（2022年6月）について

【議案】

- (1) 利用実績及び収支状況速報について

2022年9月28日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年7月）について
- (2)情報提供

【議案】

- (1)法人ホームページリニューアルについて
- (2)利用実績及び収支状況速報について

2022年10月26日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年8月）について
- (2)情報提供

【議案】

- (1)2022年度補正予算について
- (2)中期経営計画 2023-2025年度について
- (3)訪問看護ステーション備品等について

2022年11月30日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年9月）について
- (2)情報提供

【議案】

- (1)2022年度補正予算について
- (2)ホームページの業者選定について

2022年12月28日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年10月）について

【議案】

- (1)中期経営計画（2023-2025）について

2023年1月25日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年11月）について

【議案】

- (1)税務調査について

2023年2月22日（水）zoomによるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2022年12月）について
- (2)理事会・評議員会報告

【議 案】

- (1)税務調査（通勤費）について
- (2)2023 年度入職式について
- (3)中期経営計画（2023 年度－2025 年度）について

2023 年 3 月 30 日（水）zoom によるリモート開催

【報告事項】

- (1)月次報告（2023 年 1 月）について

【議 案】

- (1)税務調査について
- (2)一般事業主行動計画について
- (3)2023 年度事業計画及び予算について